デジタルカメラ

FE-110/X-705
FE-100/X-710

取扱説明書

応用編

カメラを使いこなすための
すべての機能について説明しています。

カメラの基本操作

いろいろな撮影

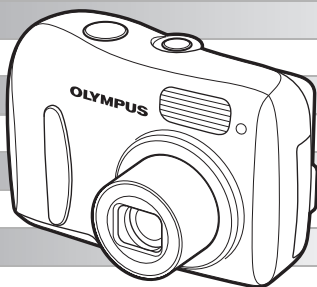
いろいろな再生

プリント

パソコンでの活用

カメラの設定

困ったときに

- ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、海外旅行などの大切な撮影の前には試し撮りをしてカメラが正常に機能することをお確かめください。
- 取扱説明書で使用している液晶画面やカメラのイラストは、実際の製品とは異なる場合があります。また、断りがない限り、FE-110/X-705で説明しています。

取扱説明書の使い方

●表記について

本書の各機能説明ページの表記について説明します。撮影・再生を始める前にご確認ください。ボタン・メニューの操作方法の詳細については、各参照ページをご覧ください。

撮影モードまたは再生モードを示しています。
☞「撮影モード・再生モードを切り換える」(P.9)、「撮影モード・再生モードの表記」(P.9)

静止画の再生

回転再生

カメラを縦に構えて撮影した画像は、横向きに表示されます。このような横向きの画像を回転して縦向きに表示します。時計方向に90度、反時計方向に90度の回転ができます。

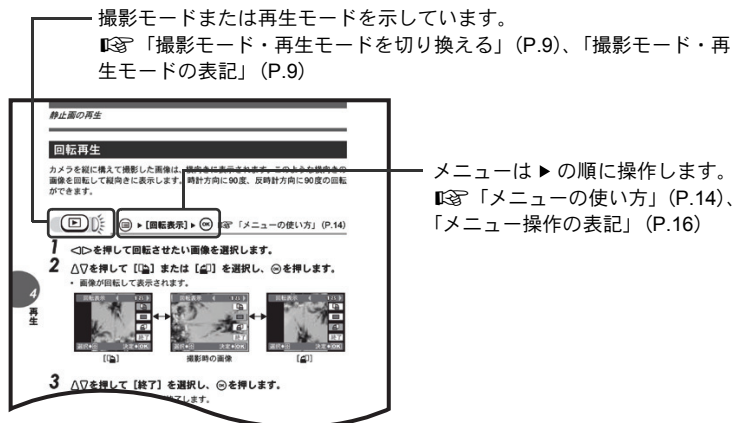
▶［回転表示］▶ Ⓞ ☞「メニューの使い方」(P.14)

1 ◁▷を押して回転させたい画像を選択します。

2 △▽を押して［ ］または［ ］を選択し、Ⓞを押します。
・画像が回転して表示されます。

撮影時の画像

3 △▽を押して［終了］を選択し、Ⓞを押します。

メニューは ▶ の順に操作します。
☞「メニューの使い方」(P.14)、「メニュー操作の表記」(P.16)

このページは説明のためのサンプルです。実際のページとは異なる場合があります。

ご注意
故障やトラブルになるような、重要な注意事項が書かれています。絶対に避けていただきたい操作も書かれています。

ヒント
活用するために、知っておくと便利なことや役に立つ情報などが書かれています。

☞
本書での参照先のページを書いています。

●「基本編」と「応用編」について

このカメラの取扱説明書は、基本編と応用編（本書）の2冊で構成されています。

基本編　撮影して再生するまで、すぐにできるように簡単に説明しています。さっそく撮ってみましょう。また、カメラの代表的な機能の他、プリントする場合やパソコンで活用する方法についても紹介しています。

応用編　カメラの使い方に慣れたら、カメラの他の機能も使ってみましょう。もっときれいに、もっと楽しく撮れるように多くの機能が用意されています。

取扱説明書の構成

各章の扉ページには、それぞれの章に関連したコラムを記載しています。ぜひご覧ください。

もくじ

4 再生 ------------------------- 39

5 カメラの便利機能 ------------------- 50

6 プリントする ----------------------- 56

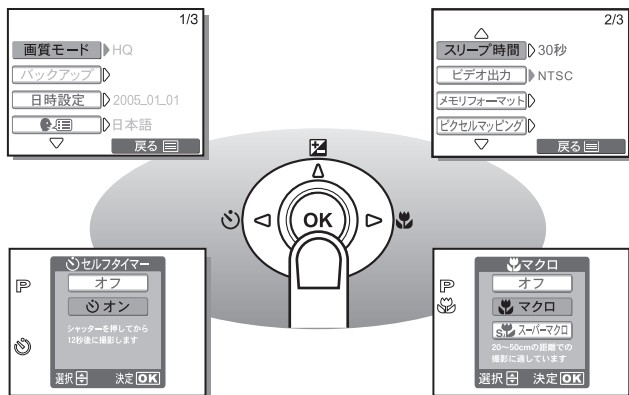
7 パソコン接続 ---------- 72

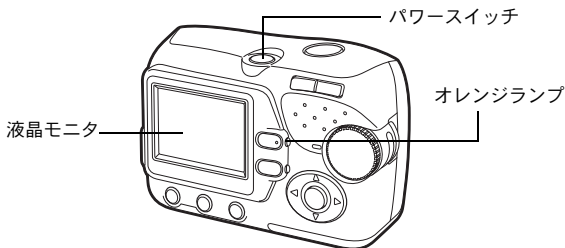
8 付録 ---------- 88

9 資料 ---------- 104

1

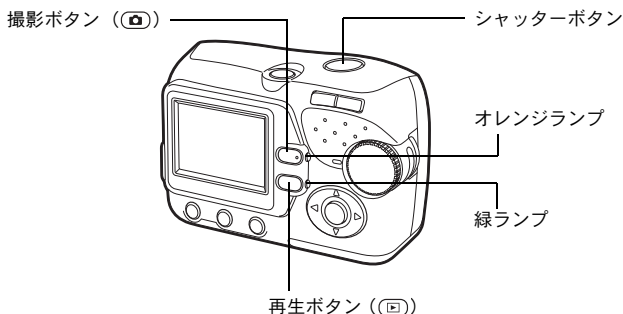
カメラの基本操作

デジタルカメラを使うあなたにとってボタンの操作は重要なポイントです。
メニューの設定は、液晶モニタを見ながらボタン操作で行います。各機能の説明を読む前に、まずはボタンとメニューの操作方法をマスターしましょう。

電源を入れる／切る

電源を入れる … **パワースイッチを押します。**
レンズがせり出し、液晶モニタに被写体が表示されます。オレンジランプが点灯します。
この状態で撮影できます（撮影モード）。

電源を切る … **パワースイッチを押します。**
レンズが収納されて電源が切れます（液晶モニタが消灯します）。
オレンジランプが消灯します。

ご注意

- カメラの電源が入っているときは、絶対に電池／カードカバーを開けたり、カードや電池を取り出したり、ACアダプタを抜き差ししたりしないでください。内蔵メモリ内またはカード内のデータが破壊されるおそれがあります。破壊されたデータは復旧できません。カードを交換するときは、必ず電源を切ってから電池／カードカバーを開けてください。

撮影モード・再生モードを切り換える

撮影するとき（撮影モード）

- 液晶モニタに被写体が表示されます。
- オレンジランプが点灯します。

再生ボタン（）を押します

撮影ボタン（）またはシャッターボタンを押します

再生するとき（再生モード）

- 液晶モニタに最後に撮影した画像が表示されます。
- カメラ本体の緑ランプが点灯します。

ご注意

- 電源を入れた後に液晶モニタが一瞬光り、しばらくしてから画像が表示されることがありますが、故障ではありません。

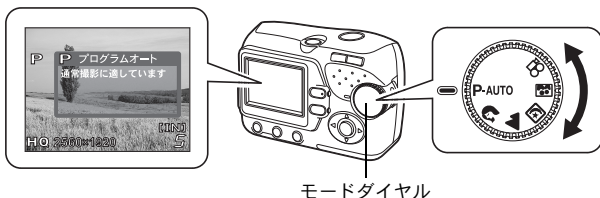
撮影モード･再生モードの表記

本書では、各機能を操作するときのカメラの状態を以下のアイコンで示します。

撮影モードであることを示します。
（）隣のオレンジランプが点灯した状態で操作します。

再生モードであることを示します。
（）隣の緑ランプが点灯した状態で操作します。

モードダイヤルの使い方

このカメラは静止画撮影とムービー撮影ができます。モードダイヤルを使って撮影の種類を切り換えてから撮影します。モードダイヤルを合わせると、各モードの説明が液晶モニタに表示されます。

● モードダイヤルの種類

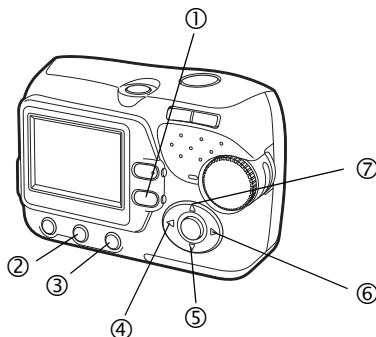
P-AUTO	通常の撮影に適しています。
人物	人物撮影に適しています。
風景	風景撮影に適しています。
夜景	夜景撮影に適しています。
セルフポートレート	セルフポートレート撮影に適しています。
ムービー	ムービーを撮影します。

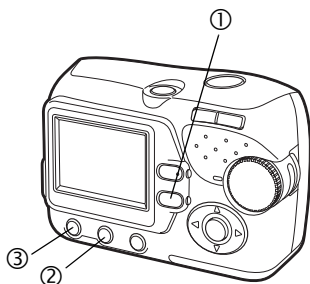
? ヒント

- 各モードの詳細については「撮影シーンに合わせた撮影」(P.28)を参照してください。
- モードダイヤルの変更はカメラの電源が入っている状態でも行えます。

ダイレクトボタンの使い方

撮影モードと再生モードで使用できるボタンが異なります。

●撮影モードのダイレクトボタン

①	（再生）ボタン	P.9
	再生モードに切り換わります。	
②	ボタン	P.14
	撮影モードのメニューが表示されます。	
③	（フラッシュモード）ボタン	P.33
	フラッシュモードを選択します。	
④	（セルフタイマー）ボタン	P.35
	セルフタイマー撮影のオン／オフを切り換えます。	
⑤	RESET（リセット）ボタン	P.53
	変更した設定を初期設定に戻します。	
⑥	（マクロ）ボタン	P.31
	マクロ撮影またはスーパーマクロ撮影を切り換えます。	
⑦	（露出補正）ボタン	P.38
	露出補正値を設定します。	

●再生モードのダイレクトボタン

①	(撮影)ボタン	☞P.9
	撮影モードに切り換わります。	

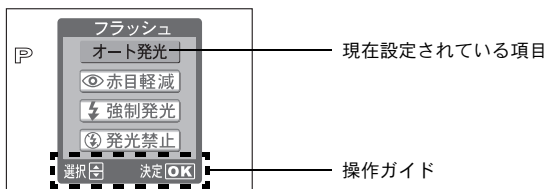
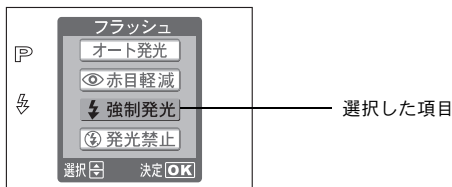
②	ボタン	☞P.14
	再生モードのメニューが表示されます。	

③	(消去)ボタン	☞P.47
	表示している画像を消去します。	

ダイレクトボタンの操作方法

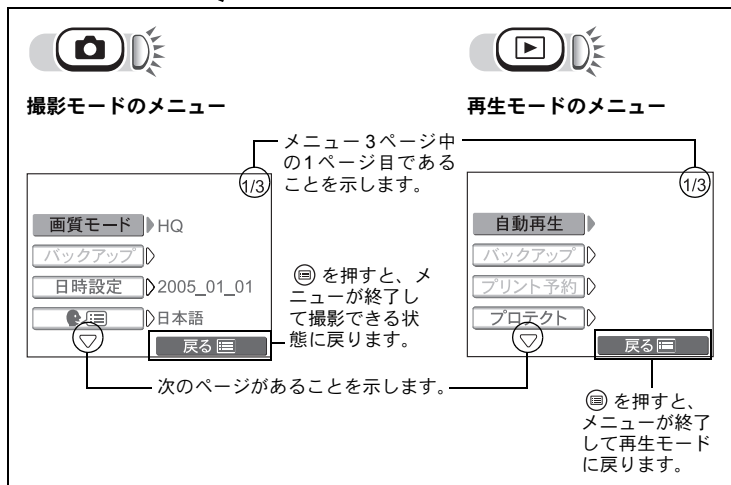
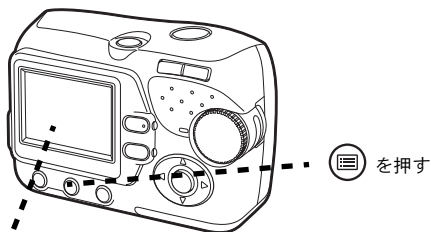
基本機能はダイレクトボタン操作で手軽にできます。十字ボタンと㊊を使って設定します。画面に使用するボタンが表示されますので、それにしたがって選択、設定します。
ここでは⚡を使って、フラッシュモードを設定する操作について説明します。

1 撮影モードで⚡を押します。

- フラッシュモード選択画面が表示されます。

2 △▽を押してフラッシュモードを選択します。

3 ㊊を押します。

- 撮影できる状態になります。
- 3秒間何も操作しないと、現在の設定が確定されて、設定画面が消えます。

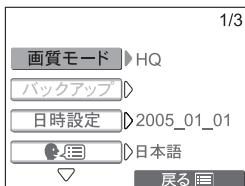
メニューの使い方

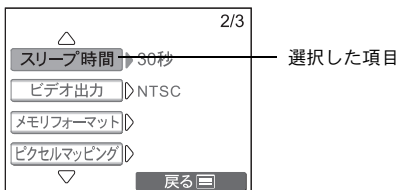
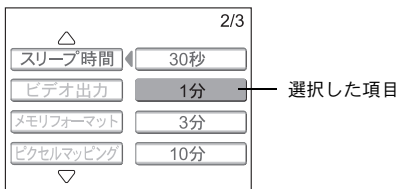
カメラの電源を入れて ▤ を押すと、液晶モニタにメニューが表示されます。カメラの各設定はこのメニューで行います。
撮影モードと再生モードでは、表示されるメニュー項目が異なります。

メニューの操作方法

メニューは十字ボタンと㊋を使って設定します。メニュー画面に使用するボタンが表示されますので、それにしたがって選択、設定します。
ここでは撮影モードの画面を使って、メニュー画面とその操作について説明します。

例：［スリープ時間］を設定する場合

1 **⊜を押します。**

- メニューが表示されます。

2 **△▽を押して設定する項目を選択し、㊋または▷を押します。**

- 設定できない項目は選択できません。

3 **△▽を押して設定を変更し、㊋または◁を押します。**

4 を押します。

- メニューが終了して撮影できる状態になります。

ヒント

- メニューで設定した機能は、電源を切っても保持されます。
- 撮影モードと再生モードで共通のメニュー項目は、どちらのモードで設定しても同じ設定になります。

メニュー操作の表記

本書では、メニューでの操作手順を次のように表記しています。
- 例：[スリープ時間] を設定する場合の手順1、2

撮影前に知って おきたいこと

2

モードダイヤルを P-AUTO に合わせてシャッターボタンを押すだけで、ほとんどの場合は上手く撮ることができます。でも、どうしても被写体にピントが合わないなど、思い通りに撮れない・・・・ということはありませんか？
そんなとき、ちょっとした撮影のコツを活用したり、カメラの簡単な機能を使うだけで、問題が解消する場合もあります。
また、撮影後の画像の利用方法に合わせて画像サイズを選択して撮影すると、より多くの画像を記録することができます。これも“ちょっとしたコツ”のひとつです。

ピントが合わないとき

カメラは撮影する構図の中で、自動的にピントを合わせるべきものを検出します。被写体を検出する際、コントラストの強さも判断の基準になります。被写体のコントラストが周囲に比べて弱いときや、よりコントラストの強い部分が構図の中にあるときは、カメラは判断を誤る場合があります。その場合のもっとも簡単な対処法にフォーカスロックがあります。

ピント合わせの方法（フォーカスロック）

1　ピントを合わせたいものにAFターゲットマークを合わせます。

- ピントが合いにくいものや速く走るものの場合、まず撮影したいものとほぼ同じ距離のものにカメラを向けます。

AFターゲットマーク

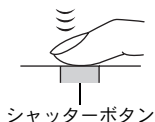
2　シャッターボタンを緑ランプが点灯するまで押します（半押し）。

- ピントと露出が固定されると、緑ランプが点灯します。
- 緑ランプが点滅したときは、ピントと露出が固定されていません。シャッターボタンから指を離し、ピントを合わせる位置を少しずらしてもう一度シャッターボタンを半押ししてください。

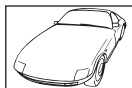
シャッターボタン

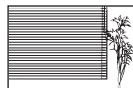
3　半押しの状態のまま撮影したい構図にします。

緑ランプ

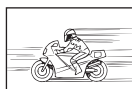
4 シャッターボタンを押し込みます（全押し）。

オートフォーカスの苦手な被写体

次のような場合、オートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。

緑ランプ点滅
このようなものにはピントが合いません。

コントラストがはっきりしない被写体

画面中央に極端に明るいものがある場合

縦線のないもの

緑ランプは点灯するが、写したいものにピントが合わない。

遠いものと近いものが混在する場合

動きの速いもの

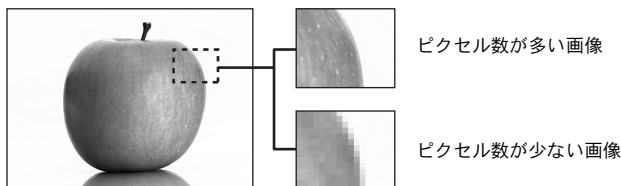
ピントを合わせたいものが中央にない

いずれの場合も、被写体と同距離にあるコントラストのはっきりとしたものでピントを合わせた後、構図を決めて撮影してください。また、縦線のない被写体の場合は、カメラを縦位置に構えてピントを合わせた後、構図を横に戻して撮影しても効果的です。

画質について

撮影する画像の画質を設定します。プリント用、パソコンでの加工用、ホームページ用など、用途に合わせて画質モードをお選びください。各画質モードでの画像サイズや撮影可能枚数・時間については、P.21の表をご覧ください。

静止画の画質モード

画質モードは、記録する画像のピクセル数と圧縮する度合いの組み合わせを表しています。
画像はピクセル（点）の集まりでできています。ピクセル数が少ない画像を拡大するとモザイク状に表示されます。ピクセル数が多い画像は1枚の画像のファイルサイズ（データの量）が大きくなり、記録できる枚数が少なくなりますが、密度が高く精細になります。圧縮率が高いほどファイルサイズは小さくなりますが、画像を表示したときに粗く見えます。

画像が精細になる ←

画像サイズが大きくなる ↑

用途	圧縮／画像サイズ	低圧縮	高圧縮
プリントサイズに合わせて選択	・FE-110／X-705 2560 × 1920	SHQ	HQ
	・FE-100／X-710 2272 × 1704		
	1600 × 1200	—	SQ1
小さいプリントやホームページ用	640 × 480	—	SQ2

画像サイズ
画像を記録する際の大きさ（横の画素数×縦の画素数）です。画像をプリントするときは、大きな画像サイズで記録しておくときれいにプリントされます。

圧縮
画像を圧縮して保存します。圧縮率が高いほど画質は粗くなります。

ムービーの画質モード

Motion-JPEG形式でムービーを記録します。

撮影可能枚数・撮影可能時間

静止画の場合

画質モード	画像サイズ	撮影可能枚数（枚）	
		内蔵メモリ	カード（16MBの場合）
SHQ	FE-110／X-705：2560 × 1920	7	4
	FE-100／X-710：2272 × 1704	9	5
HQ	FE-110／X-705：2560 × 1920	22	12
	FE-100／X-710：2272 × 1704	28	16
SQ1	1600 × 1200	42	24
SQ2	640 × 480	160	91

ムービーの場合

画質モード	画像サイズ	撮影可能時間（秒）	
		内蔵メモリ	カード（16MBの場合）
HQ	320 × 240（15コマ／秒）	85秒	48秒
SQ	160 × 120（15コマ／秒）	340秒	194秒

ヒント

- 撮影した画像をパソコン上で見る場合に表示される画像の大きさは、パソコンのモニタ設定によって異なります。たとえば、1024 × 768ピクセルの画像サイズで撮影された画像は、パソコンのモニタ設定が1024 × 768のとき画像を等倍（100％）で表示すると、モニタ全体に表示されます。モニタ設定がそれ以上（1280 × 1024など）になると、モニタの一部にしか表示されません。

撮影可能枚数

撮影可能時間

ご注意

- 撮影可能枚数・時間はおおよその目安です。
- 撮影可能枚数は撮影対象やプリント予約の有無などによっても変わります。撮影や画像の消去を行っても枚数が変わらないことがあります。

画質モードを変更する

☞「メニューの使い方」（P.14）

1 **静止画の場合は、画質モードを［SHQ］［HQ］［SQ1］［SQ2］から選択します。**

画質モード
SHQ 2560×1920
HQ 2560×1920
SQ1 1600×1200
SQ2 640×480
選択 決定 OK

静止画の場合

ムービーの場合は、画質モードを［HQ］［SQ］から選択します。

ムービーの場合

2 **OKを押します。**

- メニューボタンを押すと、メニューが終了します。

画像の保存について

撮影した画像はカメラの内蔵メモリに記録されます。
また、xD-ピクチャーカード（以降カードと呼びます）に記録することもできます。カードを使うと内蔵メモリより多くの画像を記録しておくことができます。旅行などで枚数をたくさん撮影するときは、カードを使用すると便利です。

●内蔵メモリについて

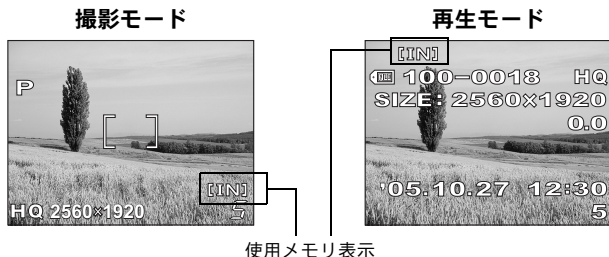
内蔵メモリは、撮影した画像を記録するためのフィルムにあたるものです。
内蔵メモリに記録された画像は自由に削除したり、パソコンで加工することができます。内蔵メモリはカメラから取り出したり、交換したりすることはできません。

内蔵メモリとカードの関係

内蔵メモリまたはカードのどちらを使用して撮影・再生しているか、液晶モニタの表示で確認できます。

撮影モード

再生モード

使用メモリ表示

液晶モニタ表示	撮影モードのとき	再生モードのとき
[IN]	内蔵メモリに記録されます。	内蔵メモリ内の画像を再生しています。
[xD]	カードに記録されます。	カード内の画像を再生しています。

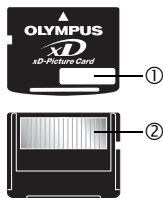
- 内蔵メモリとカードを同時に使用することはできません。
- カードが入っていると、内蔵メモリへ記録・再生はできません。内蔵メモリを使用するときは、カードを抜いてください。
- 内蔵メモリに記録された画像をカードにコピーすることができます。☞「内蔵メモリの画像をカードにコピーする（バックアップ）」（P.54）

カードを使う

このカメラにはカードを入れることができます。

カードについて

カードとは、撮影した画像を記録するためのフィルムにあたるものです。
カードに記録された画像は自由に削除したり、パソコンで加工したりすることができます。
容量の大きなカードに交換すると記録できる枚数を増やすことができます。

① インデックスエリア
カードに保存されている内容がわかるように、ここに記入できます。
② 接触面（コンタクトエリア）
カメラの信号読み取り接点が接触する部分です。

使用できるカード

- xD-ピクチャーカード（16MB～1GB ）

ご注意

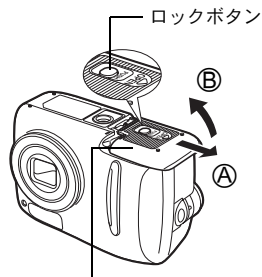
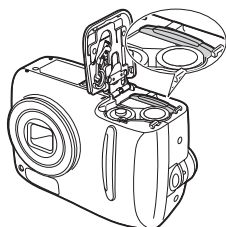
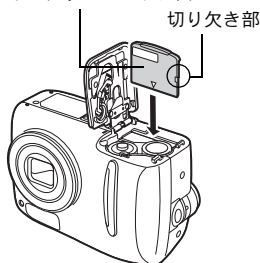
- オリンパス製以外の市販のカードや、パソコンなどの他の機器でフォーマットしたカードは、このカメラで認識できないことがあります。お使いになる前に、必ずこのカメラでフォーマットしてください。☞「フォーマット」（P.49）
- フォーマットや削除をしてもカード内のデータは完全には消去されません。廃棄する際は、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。

カードを入れる

1 カメラの電源が入っていないことを確認します。

- 液晶モニタが消灯している。
- カメラ本体の緑ランプとオレンジランプが消灯している。
- レンズが出ていない。

2 ロックボタンを押しながら電池／カードカバーをⒶの方向にスライドさせて、Ⓑの方向へ開きます。

- カバーをスライドさせるときは指の腹を使って開けてください。爪などを使うとけがをすることがあります。

●カードを入れる

3 カードの向きを図のように正しく合わせて入れます。

- カードが斜めに入らないようにまっすぐに差し込みます。
- カードを奥まで差し込むとカチッという音がして、ロックされます。
- カードの向きを間違えたり、斜めに入れた場合、接触面が破壊されたり、カードがカメラから抜けなくなることがあります。
- カードが奥まで挿入されていないと、カードに記録できなくなることがあります。

インデックスエリア面

切り欠き部

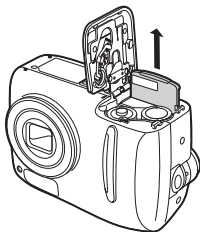
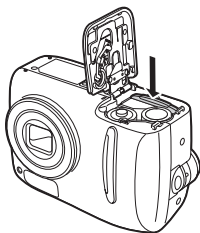
カードが正しく入った状態

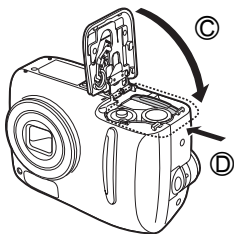
●カードを取り出す

3 カードを一度奥に向かって押しこんで、そのままゆっくり戻します。

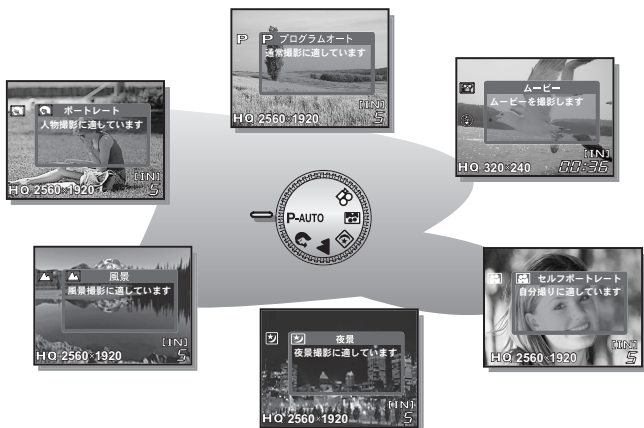
- カードが手前に出て止まります。

注意
カードを取り出す際にカードを押した指をすぐにはなしたり、指ではじくようにして押し出すと、カードが勢いよく飛び出すことがあります。

- カードをつまんで取り出します。

4 電池／カードカバーで電池を押さえながらⒸの方向に閉じて、Ⓓの方向にスライドさせます。

- 電池／カードカバーが閉まりにくいときは無理に押さず、電池／カードカバーを閉じた状態で OPEN の刻印をしっかり押さえ、Ⓓの方向へ押してください。

撮影

3

カメラマンは被写体に合わせて、露出の調整やピントの合わせ方、フィルムの選択などを常に考慮した上で、より最適な設定で撮影しています。
デジタルカメラで撮るあなたは難しい設定を覚える必要はありません。デジタルカメラには被写体にあわせた設定がすでに用意されています。風景、夜景、ポートレートなど、あなたが撮りたい！　と思うものに合わせた撮影シーンを選ぶだけで、最適な露出や色合いをカメラが設定してくれます。
さあ、あなたはシャッターボタンを押すだけです。

撮影シーンに合わせた撮影

モードダイヤルを使って撮影の種類を切り換えてから撮影します。撮影の目的や状況に合わせてモードダイヤルを合わせるだけで、撮影シーンに適した設定で撮影できます。

●撮影モードの種類

P-AUTO プログラムオート

通常の撮影に使用します。自然な色合いになるようにカメラが自動的に設定します。フラッシュなどその他の機能は、自由に設定できます。

ポートレート

人物撮影をするのに最適です。肌色の質感の再現を重視しています。

風景

風景を撮るのに最適です。近景から遠景までピントが合うように写します。また、青や緑の色をよりきれいに再現するので、自然のなかでの撮影には効果的です。

夜景

夜の景色を撮るのに最適です。通常の撮影よりも遅いシャッター速度で撮影します。P-AUTO で街灯が輝く街の夜景を撮影すると、明るさが不足するので光っている点だけの画像になってしまいます。夜景撮影では、街の様子も写し出します。夜景撮影時は、シャッター速度が遅くなりますので、カメラを三脚などで固定して撮影してください。

セルフポートレート

撮影者がカメラを持って、自分を撮るのに最適です。ピントは近くに合うようになっています。マクロとスーパーマクロを設定することはできません。

ムービー

ムービーを撮影します。撮影中はピントが固定されますので、被写体との距離が変化するとピントが外れる場合があります。音声は記録されません。

☞「ムービー撮影」（P.34）

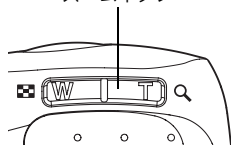
1 モードダイヤルを P-AUTO のいずれかに合わせます。

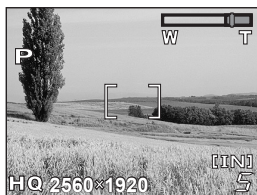
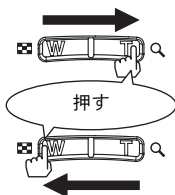
- モードダイヤルを合わせると、各モードの説明が液晶モニタに表示されます。

2 撮影します。

遠くのものを拡大して撮る

ズーム倍率2.8倍（光学ズーム 、35mmカメラ換算：38mm ~ 106mm）の望遠や広角撮影が行えます。デジタルズームと組み合わせて使用すると、最大約12倍の撮影ができます。

1　ズームボタンを押します。

広角：
ズームボタンのW側を押す

望遠：
ズームボタンのT側を押す

ズームの拡大率によってカーソルが左右に移動します。

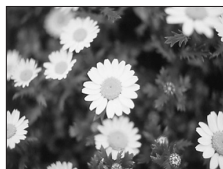
- ズームバーの白い部分が光学ズームの領域です。赤い部分がデジタルズームの領域です。光学ズームで最大までズームアップし、続けてT側を押すとデジタルズームになります。

ご注意

- デジタルズームを使って撮影すると、画像が粗くなることがあります。
- モードでは、ズームは使用できません。

近くのものを接近して撮る（マクロ／スーパーマクロ）

マクロ撮影（）：近接した被写体（広角側：20〜50cm／望遠側：50〜90cm）を撮影するときに使います。通常の撮影もできますが、遠距離の被写体にピントを合わせるのに時間がかかります。

スーパーマクロ撮影（）：被写体に約2cmまで接近して撮影できます。ズーム位置は自動的に固定されて変更はできません。通常の撮影距離には、ピントは合いません。

通常撮影

マクロ撮影

スーパーマクロ撮影

1　▷ を押します。

- マクロの設定画面が表示されます。
  ☞「ダイレクトボタンの使い方」（P.11）

2　マクロモードを選択し、OK を押します。

3　撮影します。

ご注意

- マクロモード設定時にフラッシュを使うと、影が目立ったり適正な明るさにならないことがあります。
- スーパーマクロ撮影では、ズームやフラッシュは使えません。
- モードでは、マクロ、スーパーマクロ撮影はできません。

3 撮影

フラッシュ撮影

撮影状況や目的に合わせてフラッシュの設定を選びます。

フラッシュの到達距離
広角時：約0.2～3.8m
望遠時：約0.5～2.2m

オート発光（表示なし）

暗いときや逆光のとき、フラッシュが自動的に発光します。

赤目軽減（👁）

暗い場所でフラッシュを使って人物を撮影するとき、目が赤く写る現象を軽減します。本発光の前に数回の予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。

目が赤く写ります

ご注意

- 最初の予備発光からシャッターが切れるまで約1秒かかります。カメラをしっかり構えて動かさないでください。
- フラッシュを正面から見ていない場合や、予備発光を見ていない場合、距離が遠い場合などや個人差により、赤目軽減の効果が現れにくくなります。

強制発光（⚡）

フラッシュを必ず発光させます。木かげなどで顔にかかった陰をやわらげるときや、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影のときに使用します。

ご注意

- 非常に明るい状況下では、効果が現れにくくなることがあります。

発光禁止（⊘）

暗いところでも発光させたくないときに使用します。フラッシュを使用できない場所での撮影に使用します。フラッシュが届かない遠景・夕景を撮りたいときにも使用します。

ご注意

- 暗いところの撮影ではシャッター速度が長くなりますので、カメラぶれを防ぐため三脚のご使用をおすすめします。

1 ⚡を押します。

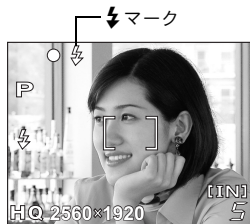
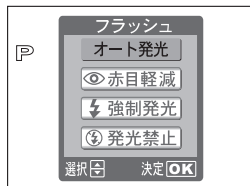
- フラッシュの設定画面が表示されます。☞「ダイレクトボタンの使い方」(P.11)

2 フラッシュモードを選択し、OKを押します。

- ⚡を繰り返し押してもフラッシュモードを選ぶことができます。

3 シャッターボタンを半押しします。

- フラッシュが発光する条件のときは、⚡マークが点灯します（フラッシュ発光予告）。

4 シャッターボタンを全押しして、撮影します。

ヒント

⚡（フラッシュ充電）マークが点滅した

→ フラッシュ充電中です。⚡マークが点滅から点灯に変わるまでお待ちください。

ご注意

- パノラマ撮影ではフラッシュは使用できません。
- 近距離でフラッシュ撮影すると、特に画面内で光の量がムラになることがあります。必ず再生して画像を確認してください。

ムービー撮影

ムービーが撮影できます。撮影したムービーはカメラで再生できます。音声は記録されません。
撮影中はピントとズームが固定されますので、被写体との距離が変化するとピントが外れる場合があります。

撮影可能時間

1 モードダイヤルを回して、🎥 に合わせます。

- 内蔵メモリまたは使用しているカードで記録できる撮影可能時間が液晶モニタに表示されます。

2 構図を決めます。

- ズームボタンで被写体を拡大できます。

3 シャッターボタンを全押しして撮影を始めます。

- ピントとズームは固定されます。
- ムービー撮影中は 🎥 マークが赤く点灯します。

4 もう一度シャッターボタンを押して、撮影を終了します。

- 撮影可能時間が0になると、自動的に撮影を終了します。
- 内蔵メモリまたはカードに空き容量がある場合は、撮影可能時間（☞P.21）が表示され、次の撮影ができます。

ご注意

- フラッシュは使用できません。
- 撮影中、撮影可能時間が急激に減ることがあります。この場合は、このカメラで内蔵メモリまたはカードをフォーマットしてから使用してください。☞「フォーマット」（P.49）

長時間ムービー撮影をする場合のご注意

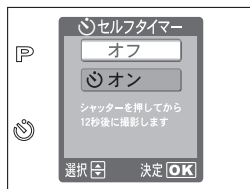
- 撮影中は、再度シャッターボタンを押してムービー撮影を終了しない限り、内蔵メモリまたはカードの空き容量がなくなるまで撮影が続きます。
- 一度のムービー撮影で内蔵メモリまたはカードの空き容量がなくなったときは、その画像を消去するか、パソコンにダウンロードしてから消去して、内蔵メモリまたはカードに空きを作ってください。

セルフタイマー撮影

セルフタイマーを使って撮影します。カメラを三脚にしっかり固定して撮影してください。記念写真などを撮るときに便利です。

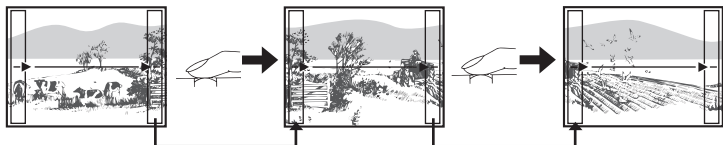
1 ◁ を押します。

- セルフタイマーの設定画面が表示されます。
  ☞「ダイレクトボタンの使い方」(P.11)

2 [オン] を選択し、OK を押します。

3 シャッターボタンを全押しして、撮影します。

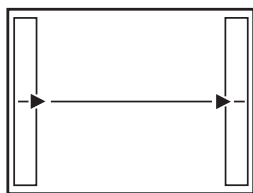
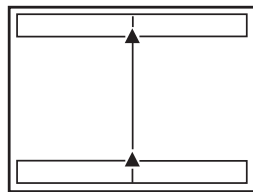
- セルフタイマーランプが約 10 秒間点灯し、さらに約2秒間点滅した後、シャッターが切れます。
- ムービー撮影の場合、再度シャッターボタンを全押しして、撮影を終了してください。
- 作動中のセルフタイマーを中止するには、◁を押します。
- セルフタイマーモードは、一回の撮影が終わると自動的に解除されます。

パノラマ撮影

当社製のxD-ピクチャーカードを使うと、パノラマ撮影が簡単に楽しめます。被写体の端が重なるようにして撮影した何枚かの画像を、OLYMPUS Master（付属のCD-ROMに収録）でつなぎ合わせ、1枚のパノラマ合成画像を作成することができます。

端の枠に、前に撮影した画像の合わせるべき部分は残っていません。撮影時には、この枠の画像を覚えていて、次のコマの枠の画像と同じになるように撮影してください。前に撮影した画像の右端（左回りのときは左端）は、次の画像の左端（左回りのときは右端）と同じ画像が撮影できるように構図を設定して撮影してください。

「メニューの使い方」（P.14）

1 **十字ボタンでつなげる方向を指定します。**

▷ ：次の画像を右につなげます。
◁ ：次の画像を左につなげます。
△ ：次の画像を上につなげます。
▽ ：次の画像を下につなげます。

左から右へ画像をつなぐ撮影をする場合

下から上へ画像をつなぐ撮影をする場合

2 被写体の端が重なるように撮影します。

- ピント・露出などは、1枚目で決定されます。1枚目に太陽などの光の強い被写体を入れた撮影などをしないでください。
- 1枚目を撮影した後は、ズーム操作はできません。
- 最大10枚までパノラマ撮影が可能です。
- 10枚撮り終わると警告マーク［ ］が表示されます。

3 パノラマ撮影を終了するには、Ⓜ を押します。

ご注意

- カードがカメラに入っていないときは、パノラマ撮影はできません。また、パノラマ合成機能付きのカード以外でパノラマ撮影はできません。
- モードでは、［パノラマ］は選択できません。
- パノラマ撮影中はフラッシュは使用できません。
- パノラマ合成はカメラ本体ではできません。パノラマ合成画像を作成する場合は、OLYMPUS Masterをご使用ください。

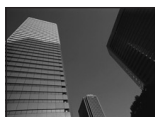
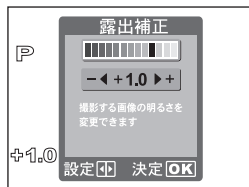
画像の明るさを変える（露出補正）

露出を手動で調整します。1/3EV刻みで±2.0EVの範囲で設定できます。

1 △⊠を押します。

- 露出補正の設定画面が表示されます。

2 ◁▷を押して調整し、㊍を押します。

- プラス［+］で明るく、マイナス［−］で暗くなります。

3 撮影します。

ヒント

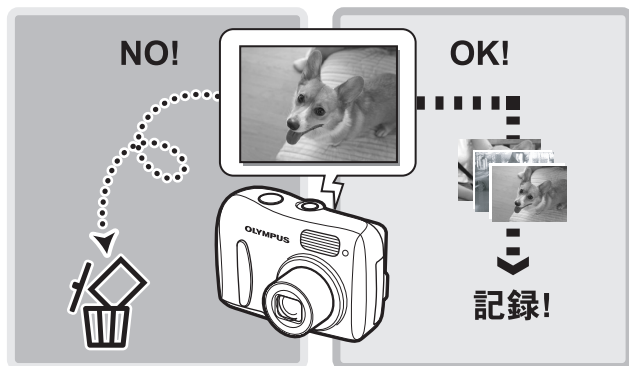
- 通常、白い被写体（雪など）を撮影すると実際より暗く写ってしまいますが、＋に補正すると見たままの白を表現することができます。黒い被写体を撮影するときは、逆に－に補正すると効果的です。
- 撮影する被写体によっては、カメラが自動的に設定した露出を補正したほうがよいときがあります。

ご注意

- フラッシュを使用すると意図した明るさ（露出）で撮影できないことがあります。
- 撮るものの周囲が極端に明るいときや極端に暗いときは、露出補正で補正しきれないときがあります。

再生

4

フィルムを使うカメラでは、撮影した写真は現像するまで見ることができません。できあがった写真を見て失敗作！とがっかりしたことはありませんか？　ボケた風景写真や目をつぶってしまった写真。ちゃんと撮れたか自信がなくて何度も同じような写真を撮ってしまったり。これでは、大切な思い出を安心して記録することができませんね。
デジタルカメラではどうでしょう。デジタルカメラなら撮影後すぐに再生できます。シャッターボタンを押したら、その場で撮った画像を確認しましょう。うまく撮れなかったら、その場で消してしまえばよいのです。さあ、失敗を恐れず、どんどんシャッターボタンを押しましょう！

静止画の再生

カードを入れているときは、カードの画像が再生されます。内蔵メモリの画像を再生するときは、カードを抜いてください。

1 を押します。

- カメラの緑ランプが点灯します。
- 液晶モニタに最後に撮影した画像が表示されます（1コマ再生）。
- 十字ボタンで見たい画像を切り換えることができます。
  ◁：1コマ前の画像を表示
  ▷：次の画像を表示
  △：10コマ前の画面を表示
  ▽：10コマ先の画像を表示

2 ズームボタンのT側またはW側を押します。

- 画像を拡大して表示（クローズアップ再生）したり、複数の画像を一覧表示（インデックス再生）したりできます。

T側を押すと1コマ表示に戻る

W側を押すと1コマ表示に戻る

インデックス再生

- インデックス再生中、十字ボタンで画像を選択します。
- 表示するコマ数を選択できます。☞「インデックス分割数」（P.41）

クローズアップ再生

- T側を押すごとに4倍まで拡大表示されます。
- クローズアップ再生中に十字ボタンを押すと、その方向に画像がスクロールします。
- 拡大した状態で画像を保存することはできません。
- ムービーはクローズアップ再生できません。

4 再生

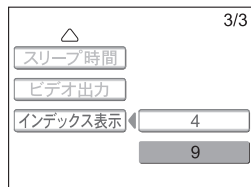
インデックス分割数

インデックス再生のコマ数を4コマ、9コマから選択します。

▶[インデックス表示]▶ OK

「メニューの使い方」(P.14)

1 **[4] または [9] を選択し、OKを押します。**

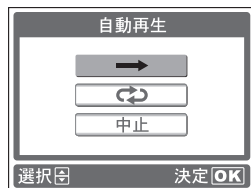
- を押すとメニューが終了します。

自動再生

内蔵メモリまたはカードに記録されている静止画像を1枚ずつ自動的に再生します。ムービーコマは、最初のフレームのみが静止画と同じように再生されます。
静止画を選択してメニューを表示してください。

→ ：記録されている画像を順番に再生し、一周すると停止します。
⇄ ：記録されている画像を繰り返し再生します。
中止 ：再生メニューに戻ります。

▶[自動再生]▶ OK 「メニューの使い方」(P.14)

1 **[→] または [⇄] を選択し、OKを押します。**

- 自動再生がスタートします。
- OKを押すと、自動再生が終了します。

ご注意

- 長時間自動再生を行う場合は、ACアダプタ（別売）のご使用をおすすめします。電池をお使いの場合、30分経過すると自動的にスライドショーが終了し、カメラの電源が切れます。

4 再生

回転再生

カメラを縦に構えて撮影した画像は、横向きに表示されます。このような横向きの画像を回転して縦向きに表示します。時計方向に90度、反時計方向に90度の回転ができます。

▶［回転表示］▶ OK ☞「メニューの使い方」（P.14）

1 ◁▷を押して回転させたい画像を選択します。

2 △▽を押して［ ］または［ ］を選択し、OKを押します。

- 画像が回転して表示されます。

［ ］　撮影時の画像　［ ］

3 △▽を押して［終了］を選択し、OKを押します。

- を押すとメニューが終了します。

ご注意

- 次の画像は回転再生できません。
  ムービー／プロテクトされた画像／パソコンで編集した画像／他のカメラで撮影した画像
- 電源を切っても、画像が回転された状態は記録されます。

ムービーの再生

1 十字ボタンで 🎥 マークの付いた画像を表示します。

☞「静止画の再生」（P.40）

2 Ⓞを押します。

- ムービーが再生されます。再生が終わると再生モードに戻ります。

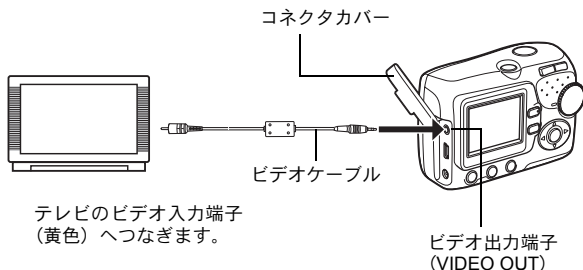
- ムービープレイを途中で中止するときは、Ⓞを押します。［中止］を選択し、Ⓞを押します。

ご注意

- オレンジランプが点滅しているときは、内蔵メモリまたはカードからカメラへの画像の読み出しが行われています。画像の読み出しには時間がかかることがあります。オレンジランプの点滅中は、絶対に電池／カードカバーを開けないでください。撮影した画像が破壊されるだけでなく、内蔵メモリまたはカードが破壊され使用できなくなる場合があります。

テレビでの再生

付属のビデオケーブルでテレビに接続して画像を再生します。
静止画とムービーのどちらも再生できます。

1 **カメラとテレビの電源を切り、ビデオケーブルでカメラのビデオ出力端子とテレビのビデオ入力端子を接続します。**

2 **テレビの電源を入れて「ビデオ入力」に設定します。**

- ビデオ入力の設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

3 **パワースイッチを押して電源を入れ、▶を押します。**

- 最後に撮影した画像がテレビに表示されますので、十字ボタンで表示する画像を選択します。
- クローズアップ再生、インデックス再生、自動再生などの再生機能が可能です。
- ビデオケーブルを接続すると、カメラの液晶モニタ表示は消えます。

? ヒント

- テレビで再生する場合は、ACアダプタ（別売）のご使用をおすすめします。

! ご注意

- テレビにより画像が画面中央からずれることがあります。

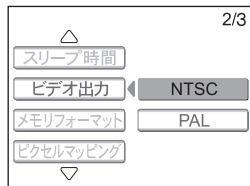
ビデオ出力方式を設定する（ビデオ出力）

お使いのテレビの映像信号に合わせて、NTSCまたはPALを選択します。海外でテレビに接続して再生するときに、設定を合わせてください。［ビデオ出力］はビデオケーブルを接続する前に設定してください。間違った映像（ビデオ）信号を選択すると、テレビで画像が正しく再生できません。

▶［ビデオ出力］▶ OK

☞「メニューの使い方」（P.14）

1 ［NTSC］［PAL］から選択し、OK を押します。

- を押すと、メニューが終了します。

ヒント

主な国や地域のテレビ映像信号

カメラをテレビに接続する前に、あらかじめご確認ください。

NTSC	日本、台湾、韓国、北米
PAL	ヨーロッパ諸国、中国

4 再生

画像を保護する

残しておきたい大切な画像は、プロテクト（保護）を設定してください。プロテクトされた画像は1コマ消去／全コマ消去で消去できませんが、フォーマットを行うとすべて消去されます。

▶[プロテクト]▶ OK

☞「メニューの使い方」（P.14）

1 ◁▷ を押してプロテクトしたい画像を選択します。

2 △▽を押して［オン］を選択し、OK を押します。

- プロテクトを解除するには、［オフ］を選択します。

プロテクトされると表示されます。

3 △▽を押して［終了］を選択し、OK を押します。

- を押すと、メニューが終了します。

画像を消去する

撮影した画像を消去します。再生している1コマのみを消去する1コマ消去と内蔵メモリまたはカード内のすべての画像を消去する全コマ消去があります。

- 内蔵メモリ内の画像を消去したいときは、カードをカメラに入れないでください。
- カード内の画像を消去したいときは、あらかじめカードをカメラに入れてください。

ご注意

- 消去したい画像がプロテクトされている場合は消去できません。画像のプロテクトを解除してから消去してください。
- 消去した画像は元に戻せません。消去する前に、大切なデータを消さないように十分に注意してください。☞「画像を保護する」（P.46）

1コマ消去

1 **消去したい画像を表示し、ボタンを押します。**

- ［1コマ消去］画面が表示されます。
☞「ダイレクトボタンの使い方」（P.11）、「静止画の再生」（P.40）

2 **［消去］を選択し、OKを押します。**

- 画像が消去され、メニューが終了します。

全コマ消去

内蔵メモリまたはカードのすべての画像を消去します。

▶［メモリセットアップ（カードセットアップ）］▶ OK

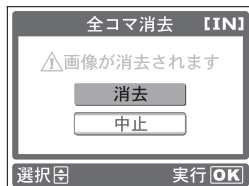
☞「メニューの使い方」（P.14）

1 ［全コマ消去］を選択して、OK を押します。

メモリセットアップ【IN】
全コマ消去
メモリフォーマット
中止
選択 実行 OK

2 ［消去］を選択して、OK を押します。

- すべての画像が消去されます。

全コマ消去 【IN】
画像が消去されます
消去
中止
選択 実行 OK

フォーマット

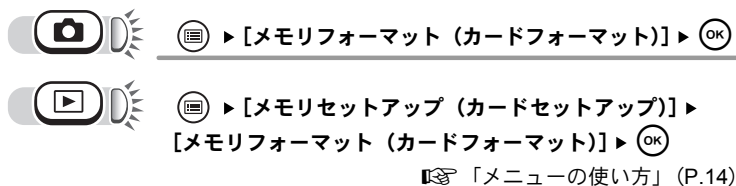
内蔵メモリまたはカードをフォーマットします。フォーマットとは、カードをこのカメラで書き込みできるように初期化することです。

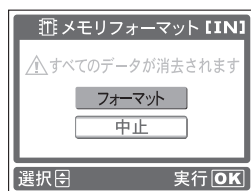
- 内蔵メモリをフォーマットする場合は、カードを入れないでください。
- カードをフォーマットする場合は、あらかじめカードを入れてください。
- 当社製以外のカードやパソコンでフォーマットしたカードを使用する場合は、必ずこのカメラでフォーマットしてください。

フォーマットするとプロテクトをかけた画像を含むすべてのデータは消去されます。すでに使用しているカードをフォーマットするときは大切なデータが記録されていないことを確認してください。

▶[メモリフォーマット（カードフォーマット）]▶ OK

▶[メモリセットアップ（カードセットアップ）]▶[メモリフォーマット（カードフォーマット）]▶ OK

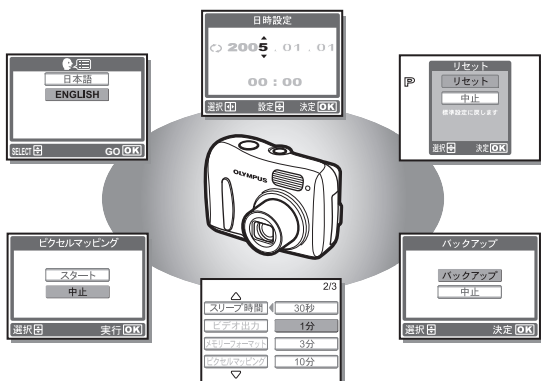
☞「メニューの使い方」（P.14）

1 ［フォーマット］を選択し、OKを押します。

- 画面に処理中のバーが表示され、フォーマットされます。

ご注意

- フォーマット中は絶対に次のことをしないでください。カードが使用できなくなるおそれがあります。
  電池/カードカバーを開ける／ACアダプタの抜き差しをする（カメラに電池が入っている、いないにかかわらず絶対にしないでください。）

4 再生

5 カメラの便利機能

撮ってすぐ見る、これがデジタルカメラの大きな特徴であり、便利なところです。
でも、デジタルカメラの便利さはそれだけではありません。
たとえば、海外の友人が使うときは、言語を切り換える、内蔵メモリの画像をカードにバックアップする、スリープ状態になるまでの時間を変更する、など。
機能を上手に活用してカメラをより使いやすくしてください。

カメラで表示する言語を切り換える

液晶モニタのメニュー表示やエラーメッセージを日本語でなく、他の言語にすることができます。日本語に戻すこともできます。

▶ [ ] ▶ OK 「メニューの使い方」(P.14)

1 表示したい言語を選択し、OK を押します。

- を押すと、メニューが終了します。

ヒント

表示する言語を増やしたい

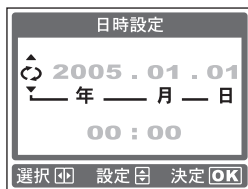
→ OLYMPUS Masterを使って、表示する言語を増やすことができます。詳しくはOLYMPUS Masterのヘルプをご覧ください。

日付・時刻を設定する（日時設定）

日付・時刻を設定します。日時の情報は画像とともに記録され、日時の情報をもとにファイル名が付けられます。

▶［日時設定］▶ OK ☞「メニューの使い方」（P.14）

1 △▽を押して日付の順序を［年-月-日］、［月-日-年］、［日-月-年］から選択し、▷を押します。

- 年の設定に移動します。
- 以下の画面は［年-月-日］に設定した場合です。

2 △▽を押して［年］を設定し、▷で次の項にすすみます。

- ◁を押すと、1つ前の項目に戻ります。
- ［年］の上 2 桁は固定されています。

3 同様の操作を繰り返し、時刻まで入力します。

- カメラの時間表示は 24 時間表示です。午後2時は14:00と表示されます。

4 OKを押します。

- 0秒の時報に合わせてOKを押すと、正確に時間を合わせられます。
- メニューボタンを押すと、メニューが終了します。

ご注意

- 電池を抜いた状態で約1日放置すると、日時の設定は初期設定に戻ります（当社試験条件による）。また、カメラに電池を入れていた時間が短い場合は、これよりも早く日時の設定が解除されます。大切なものを撮る前には、日時の設定が正しいことを確認してください。

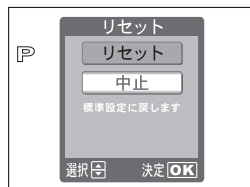
変更した設定を初期設定に戻す（RESET）

このカメラは電源を切った後も変更した設定を保持しています。RESET（リセット）機能は、変更した設定を初期設定に戻す機能です。

1 **▽RESET を押します。**

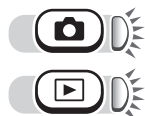
- リセットの設定画面が表示されます。
  ☞「ダイレクトボタンの使い方」（P.11）

2 **［リセット］を選択し、㊀を押します。**

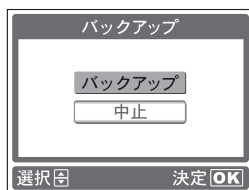
- 初期設定に戻ります。

●RESET機能を実行したとき設定が元に戻る機能

機能名	初期設定	参照頁
フラッシュ	オート発光	P.32
マクロ	オフ	P.31
露出補正	0.0	P.38
セルフタイマー	オフ	P.35
画質モード	HQ	P.22

内蔵メモリの画像をカードにコピーする（バックアップ）

内蔵メモリに記録したすべての画像データをカードにコピー（バックアップ）します。バックアップをしても内蔵メモリ内の画像は消去されません。
バックアップ機能を使用するには、カードが必要です。カードをカメラに入れてから操作してください。

▶［バックアップ］▶ OK
☞「メニューの使い方」（P.14）

1 ［バックアップ］を選択し、OK を押します。

- 内蔵メモリのすべての画像データがカードにコピーされます。
- を押すと、メニューが終了します。

ご注意

- カードの容量が不足しているときは［カード残量がありません］と表示され、バックアップは行われません。
- マークが点滅しているときは、電池の残量が不足しているため、バックアップはできません。
- バックアップ中に電池残量がなくなると画像データにトラブルが生じることがあります。ACアダプタのご使用をおすすめします。
- バックアップ中は絶対に電池／カードカバーを開けたり、電池を取り外したりしないでください。また、ACアダプタの抜き差しをしないでください。内蔵メモリまたはカードが正常に動作しなくなるおそれがあります。

待機状態に入るまでの時間を設定する（スリープ時間）

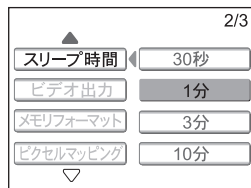
カメラは、何も操作しない状態で設定した時間が経過すると、スリープモード（待機状態）になり、動作を停止します。スリープに入るまでの時間を設定することができます。
シャッターボタン、または 、 を押すと、すぐに動作を再開します。

▶［スリープ時間］▶ OK

☞「メニューの使い方」（P.14）

1 **［30秒］［1分］［3分］［10分］から選択し、OK を押します。**

- を押すと、メニューが終了します。

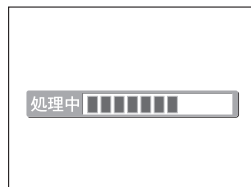
2/3
スリープ時間 | 30秒
ビデオ出力 | 1分
メモリフォーマット | 3分
ピクセルマッピング | 10分

画像処理機能をチェックする（ピクセルマッピング）

CCDと画像処理機能のチェックを同時に行います。この機能は、すでに工場出荷時に調整済みのため、お買い上げ後すぐに調整する必要はありません。調整は、年に一度を目安とし、最適な効果を得るため、撮影・再生直後より1分以上時間を空けて実行します。

▶［ピクセルマッピング］▶ OK

☞「メニューの使い方」（P.14）

1 **［スタート］を選択し、OK を押します。**

- ピクセルマッピング実行中のバーが表示されます。終了するとメニューに戻ります。
- を押すと、メニューが終了します。

ご注意

- 誤って処理中にカメラの電源を切ってしまった場合は、必ずもう一度このチェックを行ってください。

6

プリントする

撮影した画像をプリントしましょう。
お店でプリントする方法と、自分でプリンタを使ってプリントする方法があります。
お店でプリントする時は、カードにプリント予約をしておくと便利です。プリント予約は、あらかじめプリントする画像や枚数をカードに設定しておく方法です。
自分でプリントする時は、デジタルカメラを専用プリンタに直接接続して印刷する方法（ダイレクトプリント）と、パソコンに取り込んでパソコンに接続されたプリンタで印刷する方法があります。

ダイレクトプリント（PictBridge）

ダイレクトプリントについて

カメラをPictBridge対応プリンタにUSBケーブルで接続して、撮影した画像を直接プリントすることができます。プリントする画像の選択やプリント枚数の設定は、カメラとプリンタを接続した状態で、カメラの液晶モニタを見ながら操作します。また、プリント予約の設定内容を使って、プリントすることもできます。☞「プリント予約（DPOF)」（P.67）
お使いのプリンタがPictBridgeに対応しているかどうかは、プリンタの取扱説明書でお確かめください。

PictBridgeとは…異なるメーカーのプリンタとデジタルカメラを接続し、画像を直接プリントすることを目的とした規格です。

標準設定とは…PictBridge対応プリンタには、それぞれプリント条件の標準設定があります。各設定画面（P.59～64）で［⎙標準設定］を選択すると、この設定にしたがってプリントされます。標準設定の内容については、お使いのプリンタの取扱説明書をご覧になるか、プリンタメーカーにおたずねください。

ヒント

- プリントできる用紙の種類、用紙やインクカセットの取り付け方については、お使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。

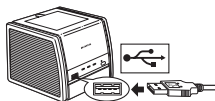
ご注意

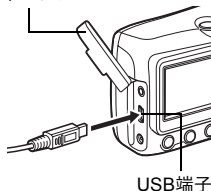
- 電源にはACアダプタ（別売）のご使用をおすすめします。電池をご使用の場合は、残量が充分にあることを確認してください。プリンタと通信中にカメラが動作を停止すると、プリンタが誤動作したり、画像データを壊すことがあります。
- ムービーはプリントできません。
- USB ケーブルでプリンタと接続しているときは、カメラはスリープモード（待機状態）になりません。

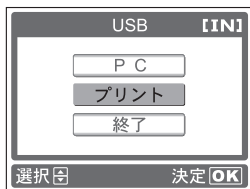
カメラをプリンタに接続する

付属のUSBケーブルで、カメラをPictBridge対応プリンタに接続します。

1 プリンタの電源を入れて、プリンタのUSBポートに、カメラに付属の専用USBケーブルのプリンタ接続側のプラグを差し込みます。

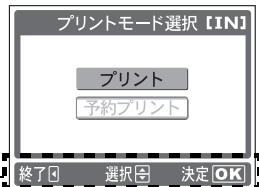
- プリンタの電源の入れ方およびUSB端子の位置は、お使いのプリンタの取扱説明書でご確認ください。

2 専用USBケーブルをカメラのUSB端子に差し込みます。

- 自動的にカメラの電源が入ります。
- カメラの液晶モニタが点灯し、USBケーブルの接続先の選択画面が表示されます。

3 [プリント]を選択し、㊍を押します。

- ［しばらくお待ちください］と表示されたあと、カメラとプリンタが接続され、カメラの液晶モニタにプリントモード選択画面が表示されます。プリントの設定はカメラの液晶モニタを見ながら操作します。☞「プリントする」（P.59）に進みます。

ご注意

- 手順3で［PC］を選択するとカメラはプリントモード選択画面に進みません。USBケーブルを抜いて、手順1からやり直してください。

プリントする

カメラをPictBridge対応プリンタに接続すると、カメラの液晶モニタにプリントモード選択画面が表示されます。この画面でプリントモードを選択して、プリントします。選択できるプリントモードは、以下のとおりです。

プリントモード選択画面

プリント　選択した画像をプリントします。

予約プリント　プリント予約の内容にしたがってプリントします。あらかじめプリント予約された画像が無いときは、選択できません。
☞「プリント予約（DPOF）」（P.67）

プリントモードや各設定の内容について

使用できるプリントモード、用紙サイズなどの設定項目は、お使いのプリンタによって選択できる項目が異なる場合があります。詳しくは、プリンタの取扱説明書をご覧ください。

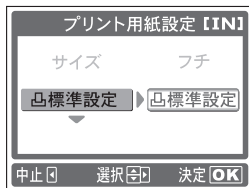
簡単なプリント方法

一番簡単なプリント方法を使って、1枚プリントしてみましょう。選択した画像が1枚、お使いのプリンタの標準的な設定でプリントされます。日付やファイル名はプリントされません。

1　プリントモード選択画面で[プリント]を選択し、Ⓞを押します。

- プリント用紙設定画面が表示されます。

2　△▽ を押して用紙サイズを選択し、▷を押します。

- プリント用紙設定画面が表示されないときは、用紙サイズとフチの設定は標準設定になります。☞手順4へ進みます。

プリント用紙設定画面

3 △▽ を押してフチの有無を選択し、㊋を押します。

有り（▢） 用紙の周辺に余白を付けてプリントします。

無し（□） 用紙いっぱいにプリントします。

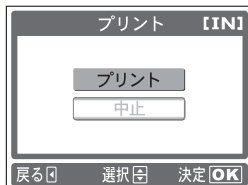
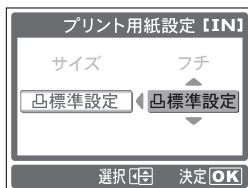
4 ◁▷ を押してプリントする画像を選択し、㊋を押します。

- プリント画面が表示されます。

5 [プリント]を選択し、㊋を押します。

プリント画面

- プリントが開始されます。
- ［中止］を選択して㊋を押すとプリントモード選択画面に戻ります。

6 プリントする

プリントモード

1 プリントモード選択画面で[プリント]を選択し、㊋を押します。

- プリント用紙設定画面が表示されます。

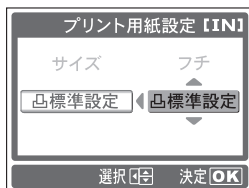
2 △▽ を押して用紙サイズを選択し、▷を押します。

プリント用紙設定画面

- プリント用紙設定画面が表示されないときは、サイズとフチの設定は標準設定になります。☞手順4へ進みます。

3 △▽ を押してフチの有無を選択し、㊋を押します。

有り（▭）　用紙の周辺に余白を付けてプリントします。

無し（□）　用紙いっぱいにプリントします。

4 ◁▷ を押してプリントする画像を選択します。

- ズームボタンのW側を押すと、インデックス表示されます。インデックスから画像を選択することもできます。

5 予約方法を選択します。

1枚予約　選択している画像を標準設定で予約します。プリント枚数は1枚です。

詳細予約　選択している画像のプリント枚数を設定してプリント予約します。日付やファイル名の付加などの設定もできます。

●1枚予約する

△を押します。

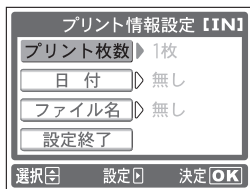
- 凸が表示されている画像のときに△を押すと、予約が解除されます。

予約マークが表示されます。

●詳細予約する

① ▽を押します。

- プリント情報設定画面が表示されます。

② △▽を押して設定したい項目を選択し、㊀を押します。設定を変更し、㊀を押します。

プリント枚数	プリント枚数を設定します。枚数は10枚まで設定できます。
日付（◷）	［有り］を選択すると、画像に日付が付加されてプリントされます。
ファイル名（FILE）	［有り］を選択すると、画像にファイル名が付加されてプリントされます。

③ 詳細予約の設定が終了したら［設定終了］を選択し、㊀を押します。

- 手順4の画面に戻ります。

- 複数の画像をまとめてプリントするときは、手順4と手順5の［1枚予約］と［詳細予約］を繰り返して、プリントする画像をすべて選択します。

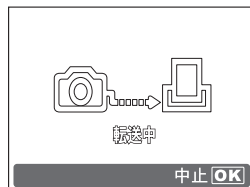
設定状態が表示されます。

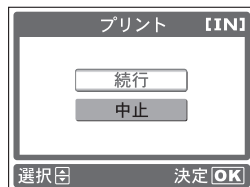
6 ㊀を押します。

- プリント画面が表示されます。

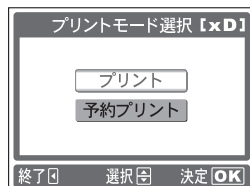
7 ［プリント］を選択し、㊍を押します。

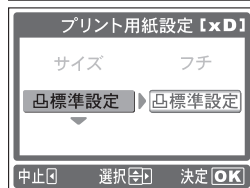
データ転送中の画面

- プリントが開始されます。
- ［中止］を選択して㊍を押すとプリントモード選択画面に戻ります。
- プリントが終了すると、プリントモード選択画面に戻ります。
  ☞「ダイレクトプリントを終了する」（P.65）

●プリントを途中で中止するには

プリンタへデータを転送中に㊍を押すと、プリント続行、または中止の選択画面が表示されます。プリントを中止するには、［中止］を選択して㊍を押します。

予約プリントモード

1 プリントモード選択画面で、［予約プリント］を選択し、㊍を押します。

- プリント用紙設定画面が表示されます。

2 △▽を押して用紙サイズを選択し、▷を押します。

- プリント用紙設定画面が表示されないときは、サイズとフチの設定は標準設定になります。☞手順4に進みます。

3 △▽を押してフチの有無を選択し、㊋を押します。

有り（▭）　用紙の周辺に余白を付けてプリントします。

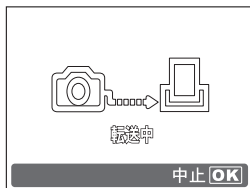
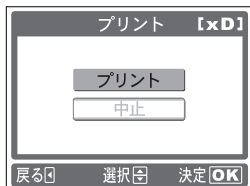
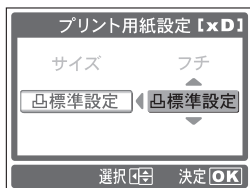
無し（▭）　用紙いっぱいにプリントします。

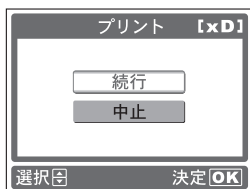
- プリント画面が表示されます。

4 ［プリント］を選択し、㊋を押します。

データ転送中の画面

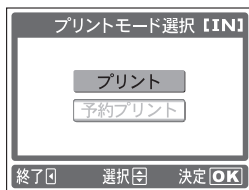
- プリントが開始されます。
- ［中止］を選択して㊋を押すとプリントモード選択画面に戻ります。

- プリントが終了すると、プリントモード選択画面に戻ります。
☞「ダイレクトプリントを終了する」（P.65）

●プリントを途中で中止するには

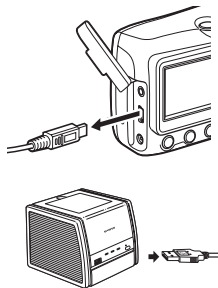
プリンタへデータの転送中に㊋を押すと、プリント続行、または中止の選択画面が表示されます。プリントを中止するには、［中止］を選択して㊋を押します。

ダイレクトプリントを終了する

プリントが終了したら、カメラをプリンタから取り外します。

1　プリントモード選択画面で、◁ を押します。

- メッセージが表示されます。

2　カメラからUSBケーブルを抜きます。

- カメラの電源が切れます。

3　プリンタからUSBケーブルを抜きます。

エラーコードが表示されたときは

ダイレクトプリント設定中およびプリント中にカメラの液晶モニタにエラーコードが表示されたときは、以下のように対応してください。
対処方法については、お使いのプリンタの取扱説明書もご覧ください。

液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
接続されていません	カメラがプリンタに正しく接続されていません。	カメラとプリンタを正しく接続し直してください。
用紙がありません	用紙切れです。	用紙をプリンタに補充してください。
インクがありません	インク切れです。	インクをプリンタに補充してください。
紙づまりです	用紙が詰まっています。	詰まった用紙を取り除いてください。
プリンタの設定が変更されました	プリンタ側で用紙カセットを取り出すなどの操作をした。	プリントの設定中には、プリンタの操作はしないでください。
プリンタエラーです	エラーが発生しました。	カメラとプリンタの電源を切り、プリンタの状態を確認してから再度電源を入れ直してください。

ヒント

- その他のエラーコードが表示されたときは、「エラーコード」（P.89）をご確認ください。

プリント予約（DPOF）

プリント予約とは

プリント予約とは、カード内の画像にプリントする枚数や日付を印刷する指定を記憶させることです。

プリント予約は、カードに記録された画像にのみ設定することができます。あらかじめ画像が記録されているカードをカメラに入れてください。

プリント予約をすると、DPOF対応のプリンタやDPOF対応のプリントショップで簡単にプリントすることができます。DPOFとは、デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するための規格です。プリントショップや家庭でのプリントアウトで自動プリントが可能なように、プリントしたい画像や枚数などの指定をカードに記録します。

プリント予約した画像は以下の方法でプリントできます。

DPOF対応のプリントショップでプリントする

予約されている内容に従ってプリントできます。

DPOF対応のプリンタでプリントする

パソコンを使わずに、専用プリンタから直接プリントできます。詳しくはお使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。PCカードアダプタが必要な場合もあります。

DPOFを使用せずにプリントサービスを利用される方へ

内蔵メモリの画像をプリントショップでプリントすることはできません。カードにコピーしてプリントショップへお持ちください。

☞「内蔵メモリの画像をカードにコピーする（バックアップ）」（P.54）

プリントショップなどのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。
ファイル番号は、画像を再生したときに、約3秒間表示されます。

（例）　FILE 100–0018

フォルダの通し番号　画像の通し番号

ファイル番号

6 プリントする

ヒント

撮影時の画質モードとプリントの関係

パソコンやプリンタの解像度には一般的に1インチあたりの点（ピクセル）の数が用いられ、dpi（dot per inch）で示されます。同じ画像をプリントしても、プリント時のdpiの値を大きくすることでより鮮明に印刷することができますが、撮影された画像のピクセル数は変わらないため、実際に印刷されるサイズは小さくなります。その画像を拡大してプリントすることもできますが、画質は粗くなります。
プリントすることを前提として撮影するときや、大きいサイズでプリントしたいときは、撮影時の画質モードをできるだけ高いものに設定することをおすすめします。☞「画質について」（P.20）

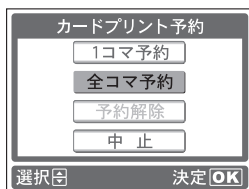
ご注意

- 他の DPOF 機器で設定された DPOF 予約内容をこのカメラで変更することはできません。予約した機器で変更してください。
- 他の機器で DPOF 予約されているファイルがある場合、このカメラで新たにDPOF予約を行うと、以前に予約した内容は消去されます。
- カードに空き容量が少ないと予約できない場合があります。［カード残量がありません］と表示されます。
- DPOF予約で予約できる枚数は、1枚のカードにつき999枚までです。
- ［この画像は再生できません］と表示される画像でも、プリント予約を設定できることがあります。その場合、1 コマ再生だとプリント予約マーク（凸）は表示されません。複数の画像を表示（インデックス表示）しているときは、凸マークが表示され、プリント予約を確認できます。
- プリンタまたはプリントショップにより、一部機能が制限されることがあります。
- プリント予約は、カードに予約を記録するときに時間がかかることがあります。

全コマ予約

カードの中の全画像を1枚ずつプリント予約します。撮影日時のプリントを指定することができます。
プリント枚数の変更はできません。枚数を変更するときは全コマ予約後、1コマ予約で変更します。☞「1コマ予約」（P.70）

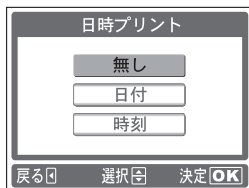
▶［プリント予約］▶ OK
☞「メニューの使い方」（P.14）

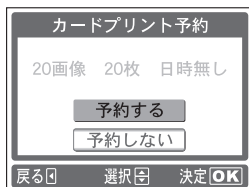
1 ［全コマ予約］を選択し、OKを押します。

カードプリント予約画面

2 ［無し］［日付］［時刻］から選択し、OKを押します。

無し　画像のみプリントされます。

日付　すべての画像に撮影年月日が付加されてプリントされます。

時刻　すべての画像に撮影時刻が付加されてプリントされます。

3 ［予約する］を選択し、OKを押します。

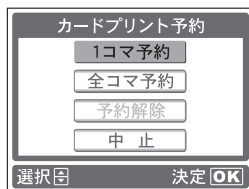
- を押すと、メニューが終了します。

6 プリントする

1コマ予約

選択した画像のみをプリント予約します。また、すでに予約した枚数や日時のプリントなどの条件を変更します。プリントするコマを表示してプリント枚数を設定します。

▶［プリント予約］▶ OK

☞「メニューの使い方」（P.14）

1 ［1コマ予約］を選択し、OK を押します。

カードプリント予約画面

2 十字ボタンを押して、プリント予約したい画像とプリント枚数を設定し、OK を押します。

- ◁▷を押して画像を選択します。
  ◁：1コマ前の画像を表示します。
  ▷：次の画像を表示します。
- △▽を押してプリント枚数を設定します。
  △：枚数が増えます。
  ▽：枚数が減ります。
- 予約を解除するときは枚数を0にします。
- 他の画像も設定するときは、この手順を繰り返します。

3 ［無し］［日付］［時刻］から選択し、OK を押します。

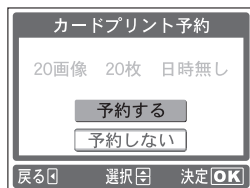
無し　画像のみプリントされます。

日付　プリント予約されたすべての画像に撮影年月日が付加されてプリントされます。

時刻　プリント予約されたすべての画像に撮影時刻が付加されてプリントされます。

6 プリントする

4 ［予約する］を選択し、Ⓞを押します。

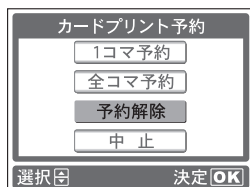
- 表示されている画像に 凸 マークが表示されます。
- ⊜ を押すと、メニューが終了します。

凸マーク

プリント予約の解除

カード内の画像のプリント予約をすべて解除します。
不要なコマの予約だけを解除したいときは、1コマ予約で設定できます。

☞「メニューの使い方」（P.14）

1 ［予約解除］を選択し、Ⓞを押します。

- カード内の予約がすべて解除されます。
- ⊜ を押すと、メニューが終了します。

ヒント

不要なコマの予約のみを解除したい

→ 1コマ予約と同じ操作で設定します。「1コマ予約」（P.70）の手順2で不要なコマを選択し、プリント枚数を0にします。

△▽を押して、0に設定します。

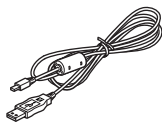
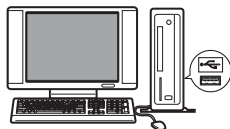
6 プリントする

7 パソコン接続

撮影した画像をパソコンで利用してみましょう。
お好みの画像を選んでプリントするだけではありません。アプリケーションソフトを使って取り込んだ画像を日付別、目的別などに整理する、画像を編集・加工する、さらにインターネットを利用し、メールに画像を添付して送るなど、カメラの楽しみがどんどん広がります。
パソコンならではの画像の表示方法もありますね。スライドショーやカメラアルバムを作ったり、デスクトップの壁紙にして楽しんだりできます。

操作の流れ

カメラをパソコンにUSBケーブルで接続して、カメラの内蔵メモリまたはカードに保存されている画像を付属のOLYMPUS Masterを使ってパソコンに取り込みます。

以下のものを準備して操作をはじめてください。

OLYMPUS Masterをインストールする	☞P.75
付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続する	☞P.79
OLYMPUS Masterを起動する	☞P.80
画像をパソコンに保存する	☞P.82
カメラをパソコンから取り外す	☞P.83

ヒント

パソコンに取り込んだ画像を活用するには

→ グラフィックソフトを使用して画像を処理する場合は、必ずパソコンに取り込んでから行ってください。ソフトウェアによってはファイル（画像）がカメラの内蔵メモリまたはカードの中にある状態で画像処理（画像の回転など）を行うと、ファイルが壊れる可能性があります。

USB接続でカメラのデータを取り込めないとき

→ xD-ピクチャーカードは、PCカードアダプタ（別売）をお使いいただくと画像を取り込める場合もあります。詳しくは裏表紙に記載の「ホームページによる情報提供について」をご参照ください。

ご注意

- カメラをパソコンに接続して使用するときは、AC アダプタ（別売）のご使用をおすすめします。電池をご使用の場合は残量をご確認ください。パソコンとの接続中（通信中）は、自動的に電源が切れません。電池の残量がなくなると、カメラは途中で動作を停止します。カメラが動作を停止すると、パソコンが誤動作したり、パソコンとカメラの通信中の場合は画像データ（ファイル）を壊すことがあります。
- 誤動作の原因になりますので、パソコンとの接続中はカメラの電源を切らないでください。
- USB ハブを経由してカメラを接続すると、ハブとパソコン間の相性によって動作が不安定になることがあります。この場合は、ハブを使用しないでパソコンとカメラを直接接続してください。

付属のOLYMPUS Masterを使う

画像の編集・管理を行うために付属のCD-ROMからOLYMPUS Masterをインストールしましょう。

OLYMPUS Masterとは

OLYMPUS Masterはデジタルカメラで撮影した画像をパソコンで楽しむためのアプリケーションソフトウェアです。パソコンにインストールすると、以下のようなことができます。

カメラやメディアから画像を取り込む

画像を整理・管理する
カレンダー形式で表示して画像を管理します。撮影日時やキーワードから、目的の画像をすばやくみつけることができます。

画像を見る・ムービーを見る
スライドショーを楽しんだり、サウンドを再生することもできます。

画像を編集する
画像の回転や反転、トリミング、サイズ変更などの編集ができます。

フィルタ機能、補正機能で画像を補正する

パノラマ写真を作る
パノラマモードで撮った画像を使ってパノラマ写真を作成します。

プリンタを使ってプリントする
インデックスプリントやカレンダー、ポストカードなど多彩なプリントが楽しめます。

上記以外の機能や操作方法については、OLYMPUS Masterの「ヘルプ」および取扱説明書をご覧ください。

OLYMPUS Masterをインストールする

お使いのパソコンのOSをご確認の上、インストールしてください。
新しいOSへの対応についてはオリンパスホームページ(http://www.olympus.co.jp)でご確認ください。

●動作環境について

Windows

OS	Windows 98SE/Me/2000 Professional/XP
CPU	Pentium III 500MHz以上
RAM	128MB以上（256MB以上を推奨）
ハードディスク容量	300MB以上
コネクタ	USBポート
モニタ	1024 × 768ドット以上、65,536色以上

ご注意

- OSがプレインストールされているパソコンのみ、動作対象となります。
- Windows 2000 Professional/XPでインストールする場合は、管理者権限を所有するユーザーでログオンしてください。
- QuickTime 6以上、Internet Explorerがインストールされている必要があります。
- Windows XPは、Windows XP Professional/Home Editionに対応しています。
- Windows 2000は、Windows 2000 Professionalにのみ対応しています。
- Windows 98SEをお使いの場合、USBドライバが自動的にインストールされます。

Macintosh

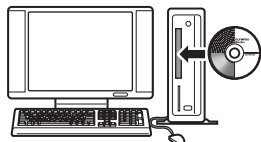
OS	Mac OS X 10.2以降
CPU	Power PC G3 500MHz以上
RAM	128MB以上（256MB以上を推奨）
ハードディスク容量	300MB以上
コネクタ	USBポート
モニタ	1024 × 768ドット以上、32,000色以上

ご注意

- USBポートが標準装備されていないMacintoshでは、パソコンとカメラをUSB接続した場合の動作を保証いたしません。
- QuickTime 6以上、Safari 1.0以上がインストールされている必要があります。
- 次の操作を行う時は、必ずメディアを取り出す手順（ゴミ箱にドラッグ＆ドロップ）を先に行ってください。この手順を行わずに操作すると、パソコン動作が不安定になり、再起動が必要となる場合があります。
  - カメラとパソコンの接続ケーブルを抜く
  - カメラの電源を切る
  - カメラの電池／カードカバーを開ける

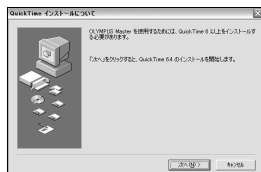
Windowsの場合

1 CD-ROMドライブにCD-ROMを入れます。

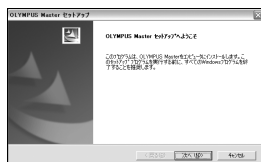
- OLYMPUS Masterセットアップ画面が表示されます。
- 表示されない場合は、「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックし、CD-ROM アイコンをクリックしてください。

2 「OLYMPUS Master」ボタンをクリックします。

- QuickTime インストール用の画面が表示されます。
- QuickTimeはOLYMPUS Masterを動作させるために必要です。すでにQuickTime 6以上がインストールされている場合は表示されません。手順4に進んでください。

3 「次へ」ボタンをクリックし、画面のメッセージに沿って操作を行います。

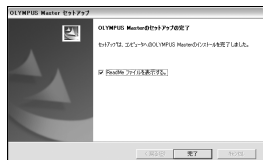
- 途中、使用許諾契約の画面が表示されたら、契約文をお読みのうえで「同意します」ボタンをクリックします。
- OLYMPUS Masterインストール用の画面が表示されます。

4 画面のメッセージにしたがって操作を行います。

- 途中、使用許諾契約の画面が表示されたら、契約文をお読みのうえで「はい」ボタンをクリックします。

- 途中、ユーザ情報入力画面が表示されたら、「名前」「OLYMPUS Masterシリアル番号」を入力し、地域を選択して「次へ」ボタンをクリックします。シリアル番号はCD-ROMのパッケージに貼ってあるシールをご覧ください。
- 途中、DirectXの使用許諾画面が表示されたら、契約文をお読みのうえで「はい」ボタンをクリックします。
- Adobe Readerをインストールするかどうか確認する画面が表示されます。Adobe ReaderはOLYMPUS Masterの取扱説明書を見るために必要です。すでにAdobe Readerがインストールされている場合は表示されません。

5 Adobe Readerをインストールする場合は「OK」ボタンをクリックします。

- インストールしない場合は「キャンセル」ボタンをクリックします。
- Adobe Readerインストール用の画面が表示されます。画面のメッセージに沿って操作を行ってください。
- 続いて、蔵衛門体験版のインストールを行うかどうか確認する画面が表示されます。蔵衛門体験版をインストールする場合は「はい」ボタンをクリックします。

6 画面のメッセージにしたがって操作を行います。

- インストール完了画面が表示されたら、「完了」ボタンをクリックします。

7 再起動を求める画面が表示されたら、「今すぐコンピュータを再起動する」を選択して「OK」ボタンをクリックします。

- パソコンが再起動します。
- CD-ROMは、CD-ROMドライブから取り出して保管してください。

Macintoshの場合

1 CD-ROMドライブにCD-ROMを入れます。

- CD-ROMのウィンドウが表示されます。
- 表示されない場合は、デスクトップのCD-ROMアイコンをダブルクリックします。

2 「インストーラ」アイコンをダブルクリックします。

- OLYMPUS Masterのインストーラが起動します。
- 画面のメッセージに沿って操作を行ってください。
- 途中、使用許諾契約の画面が表示されたら、契約文をお読みのうえで「続ける」ボタン、「同意します」ボタンをクリックします。
- インストール完了画面が表示されます。

3 「終了」ボタンをクリックします。

- 最初の画面に戻ります。

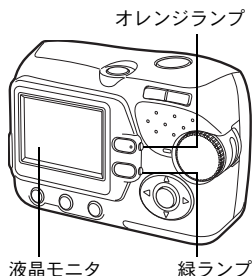
4 「再起動」ボタンをクリックします。

- パソコンが再起動します。
- CD-ROMは、CD-ROMドライブから取り出して保管してください。

カメラをパソコンに接続する

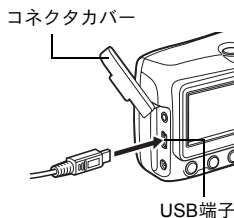
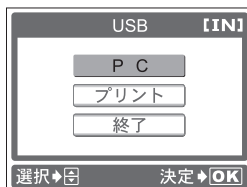
付属のUSBケーブルで、カメラをパソコンに接続します。

1 カメラの電源が入っていないことを確認します。

- 液晶モニタが消灯している。
- カメラ本体の緑ランプとオレンジランプが消灯している。
- レンズが出ていない。

2 パソコンのUSBポートに、カメラに付属のUSBケーブルを差し込みます。

- USBポートの位置はお使いのパソコンの取扱説明書でご確認ください。

3 付属のUSBケーブルをカメラのUSB端子に差し込みます。

- 自動的にカメラの電源が入り､緑ランプが点灯します。
- カメラの液晶モニタが点灯し、USBケーブルの接続先の選択画面が表示されます。

4 ［PC］を選択し、ⓞⓚを押します。

5 パソコンがカメラを新しい機器として認識します。

- Windowsの場合
  はじめてカメラとパソコンを接続したときは、パソコンがカメラを認識する動作を自動的に行います。設定終了のメッセージが表示されたら､「OK」ボタンをクリックしてメッセージを終了してください。カメラは「リムーバブルディスク」として認識されます。

- Macintoshの場合
  画像ファイルは通常iPhotoというアプリケーションで管理されます。はじめてカメラを接続するとiPhotoが起動しますので、iPhotoを終了させOLYMPUS Masterを起動してください。

ご注意

- パソコンに接続中は、カメラとしての機能は一切動作しません。

OLYMPUS Masterを起動する

Windowsの場合

1 デスクトップの「OLYMPUS Master」アイコン をダブルクリックします。

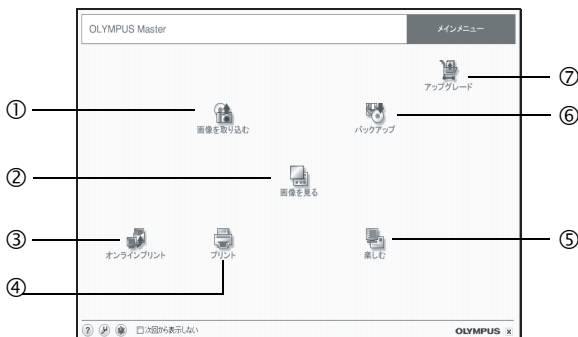
- メインメニューが表示されます。
- 最初の起動時、メインメニューの前にユーザ登録画面が表示されます。画面の案内にしたがって必要な情報を入力してください。

Macintoshの場合

1 「OLYMPUS Master」フォルダ内の「OLYMPUS Master」アイコン をダブルクリックします。

- メインメニューが表示されます。
- 最初の起動時、メインメニューの前にユーザ情報入力画面が表示されますので、「名前」「OLYMPUS Masterシリアル番号」を入力し、地域を選択してください。
- ユーザ情報入力画面に続いて、ユーザー登録画面が表示されます。画面の案内にしたがって必要な情報を入力してください。

7 パソコン接続

●OLYMPUS Masterのメインメニュー

① **「画像を取り込む」ボタン**
画像をカメラまたはメディアから取り込みます。

② **「画像を見る」ボタン**
ブラウズウィンドウが表示されます。

③ **「オンラインプリント」ボタン**
オンラインプリントウィンドウが表示されます。

④ **「プリント」ボタン**
プリントメニューが表示されます。

⑤ **「楽しむ」ボタン**
楽しむメニューが表示されます。

⑥ **「バックアップ」ボタン**
画像をバックアップします。

⑦ **「アップグレード」ボタン**
OLYMPUS Master Plusへアップグレードできるウィンドウが表示されます。

●OLYMPUS Masterを終了するには

1 メインメニューで「閉じる」ボタン ✖ をクリックします。

- OLYMPUS Masterが終了します。

カメラの画像をパソコンで表示する

取り込んで保存する

カメラの画像をパソコンに保存します。

1 OLYMPUS Masterメインメニューで「画像を取り込む」ボタン をクリックします。

- 取り込み元選択メニューが表示されます。

2 「カメラから」ボタン をクリックします。

- 取り込み元ウィンドウが表示されます。カメラ内のすべての画像が一覧表示されます。

3 画像ファイルを選択し、「取り込み」ボタンをクリックします。

- 取り込み完了のメッセージが表示されます。

4 「今すぐ画像を見る」ボタンをクリックします。

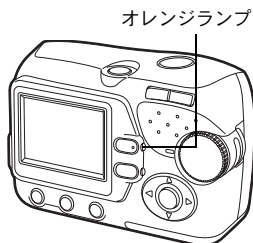
- ブラウズウィンドウに取り込んだ画像が表示されます。
- ブラウズウィンドウの「メニュー」をクリックすると、メインメニューに戻ります。

ご注意

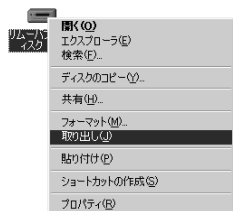
- 画像の取り込み中はカメラのオレンジランプが点滅します。点滅している間は絶対に以下のことをしないでください。ファイルが壊れる可能性があります。
  - カメラの電池／カードカバーを開ける
  - カメラからACアダプタを抜き差しする

●カメラを取り外すには

カメラの画像をパソコンに取り込んだら、カメラを取り外すことができます。

1 カメラのオレンジランプの点滅が終わっていることを確認します。

2 USBケーブルを抜く準備をします。

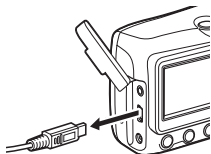
Windows 98SEの場合

1 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックして、「リムーバブルディスク」アイコンを右クリックし、メニューを表示させます。
2 メニューの「取り出し」をクリックします。

Windows Me/2000/XPの場合

1 システムトレイに表示されている「ハードウェアの取り外し」アイコン をクリックします。
2 表示されたメッセージをクリックします。
3 「デバイスは安全に取り外すことができます」というメッセージが表示されたら、「OK」ボタンをクリックします。

Macintoshの場合

1 デスクトップの「名称未設定」（または「NO_NAME」）アイコンをドラッグすると「ゴミ箱」アイコンが「取り出し」アイコンに変わりますので、そのまま「取り出し」アイコンの上にドロップしてください。

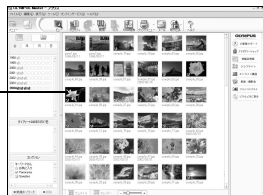
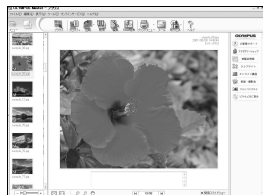
3 カメラからUSBケーブルを抜きます。

ご注意

- Windows Me/2000/XPの場合：「ハードウェアの取り外し」をクリックした際、「カメラを停止できません」という警告画面が表示される場合があります。その場合は、カメラの画像データを読み込み中でないこと、またカメラの画像ファイルを開いていたアプリケーションが起動していないことを確認してください。確認後、「ハードウェアの取り外し」の操作を再度行い、その後ケーブルを外してください。

静止画／ムービーを見る

1 OLYMPUS Masterメインメニューで「画像を見る」ボタン をクリックします。

- ブラウズウィンドウが表示されます。

2 見たい静止画のサムネイルをダブルクリックします。

- ビューモードに切り換わり、画像が拡大されます。
- ブラウズウィンドウの「メニュー」をクリックすると、メインメニューに戻ります。

●ムービーを見るには

1 **ブラウズウィンドウで見たいムービーのサムネイルをダブルクリックします。**

- ビューモードに切り換わり、ムービーの1コマ目が表示されます。

2 **ムービー表示部下側の再生ボタン をクリックするとムービーが再生されます。**

コントローラ各部の名称とはたらきは以下のとおりです。

	項目	詳細
1	再生スライダー	スライダーを移動して、任意のフレームを指定できます。
2	時間表示	再生中の経過時間が表示されます。
3	再生（一時停止）ボタン	ムービーを再生します。再生中は一時停止ボタンになります。
4	1フレーム戻るボタン	1つ前のフレームを表示します。
5	1フレーム進むボタン	次のフレームを表示します。
6	停止ボタン	再生を停止し、先頭のフレームに戻ります。
7	繰り返しボタン	ムービーが繰り返し再生されます。
8	ボリュームボタン	ボリューム調整スライダーが表示されます。

プリントする

フォト、インデックス、ポストカード、カレンダーなどのプリントメニューがあります。ここではフォトプリントを例に説明します。

1 **OLYMPUS Masterメインメニューで「プリント」ボタン をクリックします。**

- プリントメニューが表示されます。

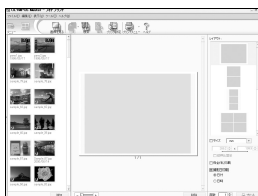
2 「フォト」ボタン をクリックします。

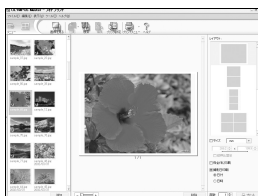
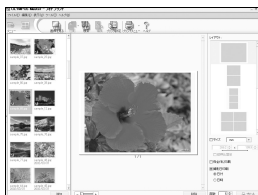
- フォトプリントウィンドウが表示されます。

3 フォトプリントウィンドウの「プリンタ設定」ボタンをクリックします。

- プリンタ設定画面が表示されますので、必要に応じてプリンタの設定を行います。

4 プリントするレイアウトやサイズなどを選択します。

- 日付または日時を入れてプリントしたいときは、「撮影日印刷」にチェックをつけて「日付」または「日時」を選択します。

5 プリントしたい画像のサムネイルを選択し、「追加」ボタンをクリックします。

- 選択した画像がレイアウト上にプレビュー表示されます。

6 プリントする部数を設定します。

7 「プリント」ボタンをクリックします。

- プリントが開始されます。
- フォトプリントウィンドウの「メニュー」をクリックすると、メインメニューに戻ります。

OLYMPUS Masterを使用せずにパソコンに画像を取り込んで保存する

このカメラはUSBストレージクラスに対応しています。OLYMPUS Masterを使用せずに付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続し、画像を取り込んで保存することもできます。接続できるパソコンの環境は以下のとおりです。

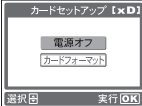
Windows：Windows 98SE/Me/2000 Professional/XP

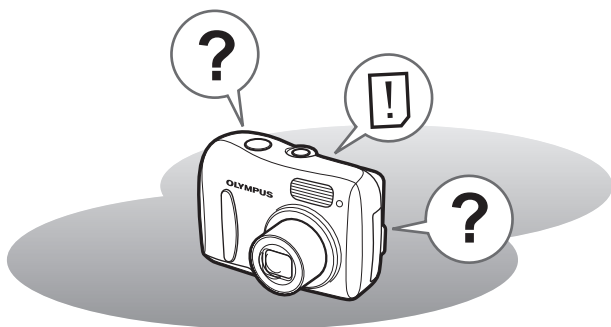
Macintosh：Mac OS 9.0-9.2/X

ご注意

- Windows 98SEをお使いの場合は、USBドライバのインストールが必要です。カメラとパソコンをUSBケーブルで接続する前に、付属のOLYMPUS Master CD-ROMの、以下のフォルダのファイルをダブルクリックしてください。
  （お使いのパソコンのドライブ名）：¥USB¥INSTALL.EXE
- USB端子を装備していても、以下の環境では正常な動作は保証いたしません。
  - Windows 95/98/NT 4.0
  - Windows 95/98からアップグレードしたWindows 98SE
  - Mac OS 8.6以前
  - 拡張カードなどでUSB端子を増設したパソコン
  - 工場出荷時にOSがインストールされていないパソコンおよび自作パソコン

8

付録

オリンパスからのお知らせです。
- カメラを操作中エラーメッセージが表示されたとき
- パワースイッチをオンにしても電源が入らず途方にくれたとき
- 大事なカメラの保管方法が知りたいとき
- 取扱説明書で使われている用語の意味を知りたいときなどなど。そんなときぜひご一読ください。

困ったときは

エラーコード

液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
カードを認識できません	カードが入っていません。 または奥までしっかりと入っていません。	カードを入れてください。またはカードを正しく入れなおしてください。 それでもこの表示が消えないときはカードをフォーマットしてください。フォーマットできない場合、このカードはご使用になれません。 カードを入れなくても、内蔵メモリがご使用になれます。
このカードは使用できません	カードに問題があります。	このカードは使用できません。 新しいカードを入れてください。
書き込み禁止になっています	カードが書き込み禁止になっています。	パソコンを使って読み取り専用の設定がされています。 再度パソコンを使って設定を解除してください。
内蔵メモリの撮影可能枚数が0です	内蔵メモリの撮影可能枚数が0のため、撮影できません。	カードを使用してバックアップするか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
カードの撮影可能枚数が0です	カードの撮影可能枚数が0のため、撮影できません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
メモリ残量がありません	内蔵メモリに空き容量がなく、新たな記録をすることができません。	カードを入れるか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
カード残量がありません	カードに空き容量がなく、プリント予約や内蔵メモリのバックアップはできません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
内蔵メモリに画像が記録されていません	内蔵メモリに記録画像がないため画像が再生できません。	内蔵メモリに画像が記録されていません。 撮影してから再生してください。

液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
カードに画像が記録されていません	カードに記録画像がないため画像が再生できません。	カードに画像が記録されていません。撮影してから再生してください。
この画像は再生できません	選択した画像に問題があり、再生できません。	パソコンの画像ソフトなどで再生してください。それでも再生できない場合は、画像ファイルの一部が壊れています。
カードカバーが開いています	電池／カードカバーが開いています。	電池／カードカバーを閉めてください。
カードセットアップ【xD】 電源オフ カードフォーマット 選択 実行 OK	カードがフォーマットされていません。	カードをフォーマットしてください。 フォーマットをすると、カード内のデータはすべて消去されます。

トラブルシューティング

●準備操作

原因	こうしましょう	参照ページ
カメラが動かない／ボタンを押しても動作しない		
電源が切れている	パワースイッチを押して、電源を入れてください。	P.8
電池の向きが正しくない	電池を正しく入れなおしてください。	—
電池残量が少なくなった	新しい電池を入れてください。または電池を充電してください。	—
寒さで電池の性能が一時的に低下した	電池をポケットに入れるなどして温めてからご使用ください。	—
カメラがスリープモード（待機状態）になっている	シャッターボタン、（撮影）または（再生）を押してください。	P.55
カメラ内が結露*した	電源を入れないでしばらくおき、カメラを乾燥させてから、電源を入れてください。	—
パソコンに接続している	パソコンと接続中、カメラは動作しません。	—

●撮影

原因	こうしましょう	参照ページ
シャッターボタンを押しても撮影ができない		
電池残量が少なくなった	新しい電池を入れてください。または電池を充電してください。	—
再生モードになっている	（撮影）またはシャッターボタンを押して撮影モードに切り換えてください。	P.9
電源が入っていない	パワースイッチを押して、電源を入れてください。	P.8
フラッシュの充電が完了していない	一度シャッターボタンから指をはなし、（フラッシュ充電）マークの点滅が終わってから撮影してください。	P.33
内蔵メモリまたはカードの容量がいっぱいになった	不要な画像を消すか、新しいカードを入れてください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。	P.47
撮影中や内蔵メモリまたはカードの書き込み中に電池がなくなった（液晶モニタが消灯した。）	新しい電池を入れてください。または電池を充電してください。（オレンジランプが点滅中は、消灯するまでお待ちください。）	—
カードに問題がある	「エラーコード」でご確認ください。	P.89

8 付録

原因	こうしましょう	参照ページ
液晶モニタが見にくい		
太陽光の下である	太陽の光を手などでさえぎって撮影してください。	—
撮影時に液晶モニタの画面に縦スジが入る	晴天下のような明るい被写体にカメラを向けると、画面に縦スジが入ることがあります。故障ではありません。	—
画像ファイルに記録される日付が正しくない		
日時が設定されていない	日時を設定してください。お買い上げ時には日時の設定はされていません。	P.52
電池を抜いて放置していた	電池を抜いた状態で約1日放置すると、日時設定が解除されます。もう一度、日時を設定してください。	P.52
ピントが合わない		
被写体との距離が近すぎる	被写体との距離をはなして撮影してください。ズームがもっとも広角のときに20cmよりも近づいて撮影するときは、スーパーマクロモードに設定してください。	P.31
AFが苦手な被写体である	フォーカスロックを使ってピントを合わせてください。	P.18
カメラ内が結露*した	電源を切ってしばらくおき、カメラ全体が環境温度になじんで乾燥するのを待ってからお使いください。	—
液晶モニタが消灯した		
カメラがスリープモード（待機状態）になっている	シャッターボタンまたは（撮影）を押してください。	P.55
フラッシュが発光しない		
フラッシュが発光禁止に設定されている	フラッシュの設定を［発光禁止］以外に設定してください。	P.32
明るい被写体である	フラッシュを強制的に発光させたい場合は、フラッシュモードを［強制発光］に設定してください。	P.32
ムービー撮影・スーパーマクロ撮影をしている	ムービー・スーパーマクロ撮影ではフラッシュはご使用になれません。	P.34
パノラマ撮影をしている	パノラマではフラッシュはご使用になれません。パノラマ撮影を解除してください。	P.36

* 結露： 外気が寒いときに空気中にある水蒸気が急速に冷やされて水滴になること。
カメラが冷えた状態で急に暖かい部屋などに入れた場合に発生します。

8 付録

原因	こうしましょう	参照ページ
電池の消耗が早い		
寒い中で使用している	低温下では電池の性能が低下します。カメラを防寒具や衣類の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。	—
電池残量が正しく表示されていない	カメラの消費電力が大きく変化する際、電池残量の警告表示なしで電源が切れる場合があります。電池を充電してください。または新しい電池を入れてください。	—
カメラ本体の緑ランプとオレンジランプが同時に点滅している		
電池の残量がない	新しい電池を入れてください。または電池を充電してください。	—

● 画像の再生

原因	こうしましょう	参照ページ
撮影した画像のピントが合っていない		
AFが苦手な被写体を撮影した	フォーカスロックを使ってピントを合わせてください。	P.18
シャッターボタンを押すときにカメラが動いてしまった（手ぶれ）	カメラを正しく構え、シャッターボタンを静かに押して撮影してください。 また、シャッター速度が遅くなると手ぶれが起きやすくなります。夜景撮影や暗い状況でフラッシュを［発光禁止］にして撮影するときは三脚をご使用になるか、カメラをしっかり構えて撮影してください。	P.18、P.32
レンズが汚れていた	レンズの汚れを拭きとってください。レンズブロワー（市販）でレンズのほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパー（市販）でやさしく拭いてください。レンズを汚れたままにしておくと、かびが生えることがあります。	P.98
撮影した画像が明るすぎる		
フラッシュの設定が［強制発光］になっていた	［強制発光］以外のフラッシュモードに設定してください。	P.32
中央部に暗いものがある	中央部に暗いものがあると全体が明るく写ります。露出補正をマイナス（−）側に設定してください。	P.38
撮影した画像が暗い		
フラッシュを指で覆ってしまった	カメラを正しく構え、フラッシュを覆わないように気をつけてください。	P.18
撮りたいものがフラッシュ撮影範囲より遠かった	フラッシュ撮影範囲内で撮影してください。	P.32
逆光状態で小さい被写体を撮影した	フラッシュモードを［強制発光］に設定して撮影してください。	P.32
フラッシュが［発光禁止］になっていた	フラッシュを［発光禁止］以外に設定してください。	P.32
中央部に明るいものがある	中央部に明るいものがあると全体が暗く写ります。露出補正をプラス（＋）側に設定してください。	P.38
雪景色などの明るい被写体を撮ると実際より暗く見える画像が撮れます	露出補正をプラス（＋）側に補正してください。	P.38

原因	こうしましょう	参照ページ
室内で撮影した画像の色がおかしい		
撮影する構図の中に白の基準になるものがなかった	白いものを入れて撮影するか、フラッシュモードを［強制発光］に設定して撮影してください。	P.32
画像の一部が暗い		
レンズに指やストラップがかかってしまった	カメラを正しく構え、レンズに指やストラップがかからないように気をつけてください。	P.18
液晶モニタ上で再生できない		
電源が入っていない	パワースイッチを押して電源を入れてください。	P.8
撮影モードになっている	(▶)を押して再生モードに切り換えてください。	P.9
内蔵メモリまたはカードに画像が記録されていない	液晶モニタに［画像が記録されていません］と表示されます。撮影してから再生してください。	–
カードに問題がある	「エラーコード」でご確認ください。	P.89
テレビに接続している	ビデオケーブルを接続しているときは液晶モニタは点灯しません。	P.44
1コマ消去・全コマ消去ができない		
画像がプロテクトされている	画像のプロテクトを解除してください。	P.46
カメラとテレビを接続してもテレビに映像がでない		
カメラの映像出力信号が間違っている	使用する地域の映像信号にビデオ出力の設定を合わせてください。	P.45
テレビの映像信号の設定が間違っている	テレビをビデオ（映像）入力モードにしてください。	P.45

●パソコンやプリンタとの接続

原因	こうしましょう	参照ページ
プリンタと接続できない		
USBケーブルでプリンタに接続したあと、液晶モニタで［PC］を選択した	USBケーブルを抜いて最初の手順からやり直してください。	P.58
プリンタがPictBridgeに対応していない	ご使用のプリンタの取扱説明書をご確認ください。または、プリンタメーカーにお尋ねください。	—
パソコンでカメラが認識されない		
パソコンがカメラの認識に失敗した	カメラからUSBケーブルを抜いて、もう一度接続し直してください。	P.58
USBドライバがインストールできていない	OLYMPUS Masterをインストールしてください。	P.75

アフターサービス

●保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

●本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。取扱説明書にしたがったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満1ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。

●保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。

●当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に当社で保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店、当社修理センター、またはサービスステーションにお問い合わせください。

●海外で故障・不具合が生じた場合は、オリンパス代理店リストに記載のⓌマークが付いた販売店・サービスステーションまでご依頼ください。

●本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等）については補償しかねます。また、運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。

●修理品をご送付の場合は、修理箇所を指定した書面を同封して十分な梱包でお送りください。また控えが残るよう宅配便または書留小包のご利用をお願いします。

お手入れ

●カメラのお手入れ

カメラの外側

- 柔らかい布でやさしく拭いてください。汚れがひどい場合は、うすめた低刺激のせっけん水に布を浸して、硬く絞ってから、汚れを拭き取ります。そのあと、乾いた布でよく拭きます。海辺でカメラを使用した場合は、真水に浸した布を硬く絞って拭き取ります。

液晶モニタ

- 柔らかい布でやさしく拭きます。

レンズ

- レンズブロワー（市販）でほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパーでやさしく拭きます。

ご注意

- 絶対にベンジンやアルコールなどの強い溶剤や化学雑巾を使わないでください。
- レンズを汚れたままにしておくと、かびが生えることがあります。

●カメラの保管

- カメラを長期間使用しないときは、電池やACアダプタ、カードを取り外してから風通しがよく涼しい乾燥した場所に保管してください。
- 保管期間中でも、ときどき電池を入れてカメラの動作を確かめてください。

ご注意

- 薬品を扱うような場所での保管は腐食などの原因になるため避けてください。

電池について

● このカメラでは、次の電池を使用することができます。用途にあわせてお選びください。

単3形アルカリ電池

旅行先などで電池が消耗しても、どこでも入手しやすい単3形アルカリ電池がご使用いただけます。ただし、銘柄や使用条件によって撮影可能枚数が大きく変わります。

このカメラでは単3形アルカリ電池を2本使用します。

ニッケル水素電池

当社製ニッケル水素電池は繰り返し使用できるので経済的です。ただし、電池の容量を使いきらずに充電を繰り返すと1回の使用時間が次第に短くなります。ご購入の際、ニッケル水素電池は十分に充電されていません。

ご使用の前に専用の充電器で充電を行ってください。詳しくは、充電器に付属の取扱説明書をお読みください。

このカメラではニッケル水素電池を2本使用します。

リチウム電池パック（CR-V3）および単3マンガン電池は使用できません。

● カメラの消費電力は、使用条件などにより大きく異なります。

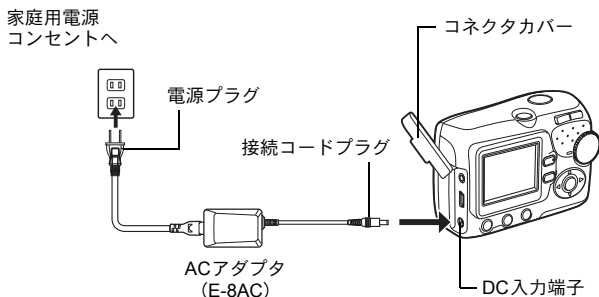
● 以下の条件では撮影をしなくても電力を多く消費するため、電池の消費が早くなります。

- ズーム動作を繰り返す。
- 撮影モードでシャッターボタンを半押しして、オートフォーカス動作を繰り返す。
- 長時間、液晶モニタで画像を表示する。
- パソコンやプリンタとの接続時。

● 電池の寿命は、お使いの電池の種類、メーカー、カメラの使用条件などにより大きく異なります。

同様の条件により、電池残量警告が表示されずにカメラの電源が切れる場合や、逆に電池残量警告が早めに表示される場合があります。

ACアダプタ（別売）

パソコンに画像をダウンロードするなど、時間がかかる作業を行なう場合には、ACアダプタのご使用をおすすめします。
家庭用コンセントを使う場合は専用のACアダプタ（E-8AC）が必要です。専用のACアダプタ以外はご使用にならないでください。

ヒント

- ACアダプタを接続しているときは､カメラに電池が入っていても電力はACアダプタから供給されます。カメラ内の電池は充電されません。

ご注意

- カメラの電源が入っているときにACアダプタを抜き差ししないでください。カメラに設定されている設定値や機能にトラブルが生じる場合があります。
- ACアダプタの取扱説明書を必ずお読みください。

使用上のご注意

使用条件について

● 本製品には精密な電子部品が組み込まれています。以下のような場所で長時間使用したり放置すると、動作不良や故障の原因となる可能性がありますので、避けてください。
  - 直射日光下や夏の海岸、窓を閉め切った自動車の中、冷暖房器、加湿器のそばなど、高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
  - 砂、ほこり、ちりの多い場所
  - 火気のある場所
  - 水に濡れやすい場所
  - 激しい振動のある場所

● カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。

● レンズを直射日光に向けたまま撮影または放置しないでください。CCDの退色・焼きつきを起こすことがあります。

● 寒い戸外から暖かい室内に入るなど急激に温度が変わったときは、カメラ内部で結露が発生する場合があります。ビニール袋などに入れてから室内に持ち込み、カメラを室内の温度になじませてからご使用ください。

● カメラを長期間使用しないと、カビがはえるなど故障の原因となることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。

● カメラのそばにクレジットカードや磁気定期券、フロッピーディスクなどの磁気の影響を受けやすいものを近づけないでください。データが壊れて使用できなくなることがあります。

● 三脚に取り付ける際は、カメラを回さず、三脚のネジを回してください。

● 本体の電気接点部には手を触れないでください。

● レンズに無理な力を加えないでください。

電池について

● 当社製ニッケル水素電池は、当社デジタルカメラ専用です。他の機器に使用しないでください。

● 電池の（＋）（－）端子は、常にきれいにしておいてください。汗や油で汚れていると、接触不良を起こす原因となります。充電や使用する前に、乾いた布でよく拭いてください。

● 充電式電池をはじめてご使用になる場合、また長時間使用していなかった場合は、ご使用の前に必ず充電してください。

● アルカリ電池は電池の銘柄、製造日からの保存期間、使用温度により内部抵抗・容量に差があるため、ニッケル水素電池などに比べて寿命が極端に短い場合があります。また、低温時は使えません。

● 一般に電池は低温になるにしたがって一時的に性能が低下することがあります。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなど保温しながら使用してください。低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると性能が回復します。
● ニッケル水素電池の使用推奨温度範囲は以下のとおりです。
  • 放電（機器使用時）：0～40°C
  • 充電：0～40°C
  • 保存：–20～30°C
  上記温度範囲外での使用は、電池性能の低下・寿命の短縮の原因となります。
● 撮影条件、使用環境および電池により、撮影枚数が減少することがあります。
● 長期間の旅行などには、予備の電池を用意されることをおすすめします。海外では地域によって電池の入手が困難な場合があります。
● 電池を捨てる際は、地域の規定にしたがって処分してください。
● 使用済みの充電式電池は貴重な資源です。充電式電池を捨てる際には、（+）（–）端子をテープなどで絶縁してから最寄の充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。詳しくは社団法人電池工業会のホームページ（http://www.baj.or.jp/recycle/）をご覧ください。

液晶モニタについて

本製品は背面の表示に、液晶モニタを使用しています。
● 液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりするおそれがあります。万一破損した場合は中の液晶を口に入れないでください。液晶が手足や衣類に付着した場合は、直ちにせっけんで洗い流してください。
● 液晶モニタの画面上下に光が帯状に見えることがありますが、故障ではありません。
● 被写体が斜めのとき、液晶モニタにギザギザが見えることがありますが、故障ではありません。記録される画像には影響ありません。
● 一般に低温になるにしたがって液晶モニタは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下した液晶モニタは、常温に戻ると回復します。
● **本製品の液晶モニタは、精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶モニタの構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。**

用語解説

画素数
画像を形成する最小単位の点。画素数が多いほど、サイズの大きな画像を作るのに適しています。

画像サイズ
画像を構成する点（ピクセル）の数で表した画像の大きさのこと。例えば、640 × 480で撮影した画像は、パソコンのモニタの設定が640 × 480のときではモニタ全体に表示されますが、1024 × 768ではモニタの一部分にだけ表示されます。

スリープモード（待機状態）
電池を節約するためのモード。電源を入れたままカメラを一定時間放置すると、電池を節約するためにカメラは動作を停止します。シャッターボタンや（撮影ボタン）、（再生ボタン）を押すと、すぐにカメラは動作します。

露出
画像が写るために得る光の量。シャッター速度と絞りでレンズを通して入ってくる光の量を調節して、露出を決めます。

●アルファベット順

CCD（charge coupled device）
レンズを通して入ってきた光りを受けて、電気信号に変換する素子。CCDで受けた光をRGBの信号に変換して、一つの画像を作り出します。

DCF（design rule for camera file system）
電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された、画像ファイルに関する規格。

DPOF（digital print order format）
デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するフォーマット。画像を保存したカードにプリントしたい画像の指定や、枚数の指定情報を記録することで、DPOF対応の写真店やプリンタでプリントアウトを簡単に行うことができます。

JPEG（joint photographic experts group）
静止画の圧縮方式。このカメラで撮影した写真（画像）は、JPEG形式で記録されます。パソコンに読み込めば、グラフィックス用のアプリケーションソフトで加工したり、インターネット閲覧ソフト（ブラウザ）で見ることができます。

NTSC／PAL (National Television Systems Committee／Phase Alternating Line)
テレビの放送方式。NTSCは主に日本、北米、韓国で使用され、PALは主にヨーロッパ諸国や中国で使用されています。

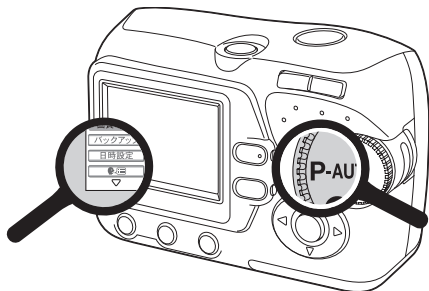
PictBridge
異なるメーカーのプリンタとデジタルカメラを接続し、画像を直接プリントすることを目的とした規格です。

TFT（thin-film transistor）液晶
薄膜で作られたトランジスタを利用したカラー液晶モニタ。

9

資料

1章から7章で説明したカメラのすべての機能を網羅的に紹介しています。
メニューの一覧など、必要に応じてご覧ください。
索引もありますので、目次からは見つからない機能や項目が記載されているページを探すときにお使いください。また、「メニュー一覧」も索引の役目をはたしますので、有効にご活用ください。

メニュー一覧

● 撮影モード

項目	選択肢	参照頁
画質モード	SHQ／HQ／SQ1／SQ2※3	P.20
バックアップ※1	バックアップ／中止	P.54
日時設定		P.52
	日本語／ENGLISH	P.51
スリープ時間	30秒／1分／3分／10分	P.55
ビデオ出力	NTSC／PAL	P.45
メモリフォーマット（カードフォーマット）	フォーマット／中止	P.49
ピクセルマッピング	スタート／中止	P.55
パノラマ※2		P.36

※1 カードがカメラに入っていないときは選択できません。
※2 当社製のカードがカメラに入っていないときは、選択できません。
※3 モードの場合は、HQ／SQから選択します。

● 再生モード

項目	選択肢	参照頁
自動再生※1	→／／中止	P.41
バックアップ※2	バックアップ／中止	P.54
プリント予約※1・※2	1コマ予約／全コマ予約／予約解除／中止	P.67
プロテクト	オフ／オン／終了	P.46
回転表示※1	／／／終了	P.42
メモリセットアップ（カードセットアップ）	全コマ消去／メモリフォーマット（カードフォーマット）／中止	P.48
日時設定		P.52
	日本語／ENGLISH	P.51
スリープ時間	30秒／1分／3分／10分	P.55
ビデオ出力	NTSC／PAL	P.45
インデックス表示	4／9	P.41

※1 ムービー画像を表示しているときは選択できません。
※2 カードがカメラに入っていないときは選択できません。

初期設定一覧

各機能は工場出荷時には下記のように設定されています。

● 撮影モード

露出補正	0.0
フラッシュモード	オート発光（🎥は発光禁止）
セルフタイマー	オフ
マクロ	オフ
画質モード	HQ

● 再生モード

インデックス表示	9

● その他

日時設定	年月日 2005.01.01 00:00
言語設定	日本語
スリープ時間	30秒
ビデオ出力	NTSC

撮影モード別設定可能な機能

撮影モード／機能	P	ポートレート	風景	夜景	セルフポートレート	動画
マクロ・スーパーマクロ	○	○	○	○	−	○
フラッシュ	○	○	○	○	○	−
セルフタイマー	○	○	○	○	○	○
ズーム	○	○	○	○	W(広角)固定	○
画質モード	○	○	○	○	○	○
露出補正	○	○	○	○	○	○
パノラマ	○	○	○	○	−	−
メモリフォーマット（カードフォーマット）	○	○	○	○	○	○
RESET	○	○	○	○	○	○
バックアップ	○	○	○	○	○	○
（言語）	○	○	○	○	○	○
スリープ時間	○	○	○	○	○	○
ビデオ出力	○	○	○	○	○	○
日時設定	○	○	○	○	○	○

○：設定可能　　−：設定不可

資料

9

索引

な行

は行

ま行

や行

ら行

お問い合わせいただく前に（お願い）

●より迅速、正確にお答えするために、お手数ですが以下の内容をあらかじめご確認ください。
●FAXまたは郵便でお問い合わせいただく場合は、必ずご記入ください。
●問題が発生したときの症状・表示されたメッセージ・症状の再現性など：パソコンが関係する問題は、とくに正確な状況把握が難しいので、お手数ですができるだけくわしくお知らせください。

●お名前（フリガナ）

●連絡先：郵便番号
ご住所（自宅か会社のいずれかを明記願います）
電話番号/FAX
E-mail

●製品名（型番）：

●シリアル番号（製品底面に記載されています）：

●お買い上げ日：

●問題が発生したときの症状・表示されたメッセージ・症状の再現性など：

＊以下は、カメラをパソコンと接続してご使用、またはソフトウェアをご使用の場合にお確かめください。
●ご使用のパソコンの種類：

パソコンメーカー・型番等

●メモリの容量　ハードディスクの空き容量：

●OS名とバージョン：
（Windows）コントロールパネル–システム–デバイスマネージャーの内容
（Mac OS）コントロールパネルや機能拡張の内容
●その他接続されている周辺機器名：

●問題のご使用アプリケーションソフト名とバージョン：

●問題のご使用弊社ソフト名とバージョン

オリンパスイメージング株式会社

〒163-0914　東京都新宿区西新宿2の3の1 新宿モノリス

● **ホームページによる情報提供について**

製品仕様、パソコンとの接続、OS対応の状況、Q&A等の各種情報を弊社ホームページで提供しております。
オリンパスホームページ **http://www.olympus.co.jp/** から「お客様サポート」のページをご参照ください。

● **製品に関するお問い合わせ先（カスタマーサポートセンター）**

フリーダイヤル
0120-084215

携帯電話・PHSからは0426-42-7499

FAX　0426-42-7486

調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

※ カスタマーサポートセンターの営業日・営業時間、最新情報についてはオリンパスホームページにて情報提供しております。
オリンパスホームページ http://www.olympus.co.jp/ から
「お客様サポート」のページをご参照ください。

● **修理に関するお問い合わせ・修理品ご送付先（修理センター）、国内サービスステーション（修理窓口）につきましては、本製品に同梱の「オリンパス代理店リスト」、またはオリンパスホームページ http://www.olympus.co.jp/ から「お客様サポート」のページをご参照ください。**

※ 記載内容は変更されることがあります。最新情報はオリンパスホームページ
http://www.olympus.co.jp/ をご確認ください。

Printed in China　VH281901